

第 8 回ようざん認知症介護事例発表会

通所系

平成 28 年 6 月 28 日

| | |
|--|-----------|
| My スタイル ～私のようざんライフ～ スーパーデイようざん飯塚第2 |P.1 |
| なんで A さん 怒ったの？ スーパーデイようざん |P.5 |
| コトバの中に スーパーデイようざん小埜 |P.10 |
| 120歳まで生きる～お父さん、歩かなきゃダメ！～スーパーデイようざん貝沢 |P.15 |
| 「デイサービスはもうーの家だよ」 ～自宅からサービス付高齢者住宅に住居が変わっても～ デイサービスようざん並榎 |P.21 |
| 「サンキュー」～そのひと言に支えられ～スーパーデイようざん双葉 |P.26 |
| 「心穏やかに、そして笑顔で過ごして頂く為に」 スーパーデイようざん石原 |P.31 |
| デイサービスぽからの認知症予防の取り組みデイサービス ぽから |P.36 |
| 私のオアシス・ようざんパーソンセンタードケア スーパーデイようざん栗崎 |P.40 |
| 「色々あるけど頑張るよ！」 スーパーデイようざん中居 |P.46 |

My スタイル

～私のようざんライフ～

スーパーデイようざん飯塚第2

発表者:金森佑介

【はじめに】

「無理かもしれない。」利用開始前のご相談の時に娘さんがおっしゃった一言でした。
この事例は、そんなA様がデイサービスに通い始めて起こった様々な変化を紹介致します。

【ご利用者様紹介】

氏名:A様 性別:女性 年齢:89歳

要介護度:1

既往歴:平成24年にアルツハイマー型認知症と診断

家族構成:夫は入院中娘家族と同居(二世帯住宅)

服薬状況:イクセロンパッチ

チラージン S1

ニスタジール

メバリッチ

マグラックス

ラキソベロン錠

性格:物静かで真面目、とても控えめな性格

生活歴:Y町の生まれ

結婚前は代用教員数年、結婚後はデパートの呉服売り場で10年ほど勤務

【家族からの希望】

夫が入院してから急に物忘れがひどくなり、入院していることも忘れてしまう。
本人は嫌がりますがデイサービスに通い、これ以上の悪化を防ぎたいと思います。
本人の性格から小規模のデイサービスが良いと思い、お試しも利用出来たので利用開始にしたいと思います。

【利用開始の様子】

まずはお試し利用からのスタート。
初めての場所ということもあり、少し緊張された様子もありましたがご近所のお知り合いの方が利

ユーザー様にいっしょに、お隣に座り和やかに会話をされていました。午後のレクのティッシュカーリングに参加され、見事3位となり笑顔で1日を過ごされていました。このままの流れでスムーズに利用開始出来るかと思いきや、自宅に帰ると「やっぱり私にはにぎやかなところは合わないみたい。お家にいてゆっくりしていたほうがいいわ。」と言われていたとケアマネから報告がありました。しかし家族の希望もあり、慣れていただく為に週3回の利用となりました。

ご利用して初めのうちは、緊張している様子で表情も硬く発語も少なく、ご自宅へ戻った後にはやはり「家がいい」との発言も聞かれていたようです。入浴についても、お風呂場に案内して声かけを行っても「入らなくていいわ」と言われている状態が続き、次第にはお風呂場の方向を指すだけで首を振るようになってしまいました。

【利用開始から3ヶ月後】

デイサービスに通うことにも慣れた様子で、利用日には朝早くからご自分で出かける用意をして待っていてくれるようになり、ご自分から話される事も増え、外出先ではより多く楽しそうに談話される姿も見られるようになりました。食事に関しても、もともと少食でしたが、今は食欲も出てきてほぼ全量召し上がれるようになりました。

自宅での様子にも変化がみられているようで、鼻歌を歌うようになったり、新聞を読んだり、見なかったテレビを観るようになりました。また、以前は自分から人を誘う方ではなかったのに「一人だとつまらない」と友人に連絡し、家に呼んでおしゃべりを楽しむようになったそうです。「もともとオシャレは好きな方なのですが何年ぶりか、思い出したようにマニキュアも塗るようになったり、私達もビックリの変化で、活動的になりました」とご家族からお話がありました。

なかでも1番の大きな変化は拒否もなくようざんで入浴が出来るようになったことです。

【何が変化をもたらしたのか】

① 充実したレクリエーション

・敬老の日イベント

昼食に炭火で焼いた秋刀魚を提供

→外でスタッフが秋刀魚を焼いているところを見て「美味しそうね！」とおっしゃり、食事中も「秋刀魚を食べたのは久しぶり。」と喜ばれる

・梨狩り

梨園に行き自分で選んだ梨を採り、その場で召し上がる

→旬の梨の美味しさに感動し「お土産に持って帰りたい！」と言われる

・外出レク

景色の綺麗なところを中心に掛掛け、散策する

→「家で寝転がっていたらこんな景色見られないわね。」と景色を楽しまれる

・おやつレク

昔懐かしいおやつを他利用者様と協力し作る

→「いつもやらないことだから楽しいわね。」と積極的に作られる

・デュアルタスク

昼食後など空いた時間を使い、毎回行う(あとだしジャンケン、手拍子しりとり、お手玉かけ算等)

→「難しい」と言われるも、楽しんで参加される

・アニマルセラピー

SD で飼っているハムスターと触れ合う

→ハムスターを見せると「可愛い」と一言

小屋掃除をしていると本人からハムスターに興味を示す

来所するたびに自ら声を掛けに行く

自宅にて一人で何もせず過ごしていることが多かった A 様にとって、デイでの時間は刺激となり、自宅での生活にも良い影響を与えたと考えられます。

② 入浴までの道のり

浴室に案内し、脱衣室や浴室の見学をされ、浴室に装飾してある富士山を見て「広いんですね。富士山もある。」と話されるも入浴拒否。その後も何度か入浴に誘うも「億劫」と断られてしまいました。約二週間後、他利用者様が足浴をしていると「足湯？」と興味を示され、そのまま足浴を勧めるも「腰まであるタイツを穿いているから面倒だわ。」と話しにのってもらえませんでした。後日声掛けを変え「皆さんに足浴器を使っていただき感想を聞くアンケートをとっているのでもお願いしてもいいですか？」とお願いすると足浴には応じてもらえ、場所も浴室ではなくホールのソファアでお話をしながら楽しめました。終わった後は「気持ち良かった。こんなに足を大事にもらったのは初めてよ、ありがとう」と感謝の言葉を聞くことが出来ました。それから引き続き入浴お誘いすると「お風呂はいいわ」と言われるも足浴にはスムーズに応じられ、場所も浴室で行えるようになりました。そんな日々が 2 か月続いたある日の事、入浴剤の入った浴槽を見て「あら、薬湯？」と言われたので「とても温まりますよ、良かったらお風呂どうですか？」と誘うと「じゃあ入ろうかしら」と言われ初めて入浴することが出来ました。「昼間からお風呂に入るなんて贅沢の極みね」と喜ばれ、その後は拒否なく入浴出来る様になっていきました。

焦らず、本人のペースに寄り添ったケアを行ったことが、入浴につながったと思われれます。

【考察】

物静かで真面目な性格、外にも出たがらず、とても控えめな A 様。知らない人ばかりの場所に通

うことすら難しいのでは、と思われていました。そんなA様がデイサービスに通うことにも慣れ、入浴も出来るようになり、利用日以外は一人でいるとつまらない様子との事で利用日が週3利用から週5利用に増えることになりました。

A様は初めて行うレクや体操には参加せず、まずはよく様子を見て慣れてきたら参加するという慎重な方です。そんなA様に対して、職員間でのケアを統一し安心して過ごせる環境づくりに努めました。この「安心」がA様に変化をもたらしたのではないのでしょうか。A様のペースに沿って行ったケアが安心出来る環境となり、デイサービスに通うことに慣れていきました。さらに充実したレクが刺激となり、家庭を含めA様の生活全般に活気が出てきたと考えられます。

【まとめ】

今回の事例にて、その人のペースに沿ったケアがいかに重要で影響を与えるかということ学びました。それは当たり前のことですが、改めてA様の事例を通して気付かされました。

これからもA様に限らず、どの利用者様にもそのひとにあったケアと充実したレクリエーションを提供し続けていきたいです。

なんで A さん 怒ったの？

スーパーデイようざん

発表者：中山 大輔

【はじめに】

A 様の毎回のケア記録には、『急に怒り出し・・・』『突然スイッチが入り・・・』『とにかく怒っている・・・』などという言葉が多く記されています。普段の職員間の会話でも「なんだかわからないけど怒り出して・・・」「〇〇まではよかったけどね・・・」といった内容のやり取りが行われることが多いです。

A 様が何に対して怒り、周りの利用者様とトラブルを起こしてしまうのか？ わからない……。また、怒ってもしばらくするとそのことを忘れケロッとしていることが多いため正直な話そこまで重要視してきませんでした。

しかし、本来はとても素直で、お話し好きで、礼儀正しく、やさしい方です。A 様が周りの利用者様、職員と気持ちよく触れ合うにはどうしたらいいか？ A 様の怒りについて寄り添い理解しようとする取り組みについて報告します。

事例紹介 A 様 女性 85 歳(平成 28 年 4 月 28 日現在)

<要介護度> 3

<既往歴> 胆石症・胆摘(平成 13 年 4 月 24 日)、逆流性食道炎、高血圧、認知症(平成 23 年 3 月頃より顕著)

<身体機能> 移動-自立、排せつ-自立、入浴-自立、食事-自立

聴力-生活に支障なし、視力-生活に支障なし(緑内障により見えづらい)

<生活歴> 工務店を自営する夫を支え仕事も家庭も順調にやっこられた。スーパーデイを利用する

数年前、夫が病気で亡くなるまでの間しっかりと看病されていた。車の運転も高齢になったため平成 23 年からやめる。現在は、長男家族と 5 人暮らしで認知症状があり記憶障害、理解力の低下、感情表現の変化、徘徊行動等がみられる。スーパーデイようざんへは週 4 回(火木金日)利用している。

<家族より> 日中は、仕事で不在のため、心配している。デイサービスではよくしてくれているので

たすかっている。

【A 様の症状と現状】

A 様は以前からとても話をするのが好きな利用者様で、話し出すと止まりません。また、会話が一方通行で言葉のキャッチボールが出来にくい状態にあります。そのため、利用者様同士での会話は中々成立せず主に職員が聞き役となり対応しています。1対1の会話であれば職員が聞き役となることで対応できますが集団での会話や行動となると周りのことを気にしないで話し始めてしまう、行動してしまうため皆で行っていることを邪魔してしまうことも少なくありません。また、そうしたときに A 様は怒りだすことが多いです。

【A 様の怒り方についての観察】

A 様が怒った際の原因について観察するといくつかの異なる理由があるのではと考えられるようになってきました。特に目立つ内容として、2 点を挙げます。一つに、特定の利用者様への敵対心、二つに、ルールを守らないための怒りです。

【特定の利用者様への敵対心】

A 様は、ある特定の利用者様に対して敵対心を抱きその人の行動一つ一つに対して怒ってしまいます。

ある対象者は、A 様と同じく 5 年以上利用されている顔なじみです。

一例を紹介します。

ある日の行動[特定の利用者様を B 様(女性)とする]

A 様、B 様がそれぞれ離れて席に座り新聞や本を読んでいる。

職員:「A 様、おはようございます。」A 様にお茶を出す。

A 様:「おはようございます。おやつはないの？」冗談を話すなど上機嫌。

そこへ B 様がトイレへ向かわれ A 様の目の前を通り過ぎる。

A 様:「あの人、同じ年だけど偉そうにして、何にもできないのよ。」顔を見た瞬間、不機嫌になる。

B 様がトイレから戻り A 様の席の後ろを通ろうとする

A 様は、肘を振って B 様に当てようとする。職員が間に入っていたため届かず。

職員が間に入ることにより、致命的な衝突には至っていないが暴力を振ってしまいそうなほどに A 様は、B 様のことを毛嫌いしておりその理由をお聞きすると“同じ年だけど偉そうにして何もできない”、“先生って知っているけど嘘”“挨拶したことがないの”といった話を繰り返しています。また、B 様は同じ時間に来所されることが多いため顔を合わせる機会も多く朝から不機嫌になってしまい入浴拒否も増えている状況です。

【意味づけ】

長い付き合いの二人ですが、年数を重ねていくうちに 2 人ともに利用開始当初よりも認知症状は少しずつ進行していきました。当時は、B 様はももとの性格からかスーパーデイで中心的な存在で B 様を中心に大きい笑い声が上がることも多くありました。A 様は、本来読書が趣味でありおとなしい性格から、そういった部分を当時からあまり快く思っていなかったのかもしれませんが。ただし、相手は中心的な存在であったためその思いを内に秘めていたのではないかと思います。上記にもありますが、少しずつ認知症状が進行し、B 様は周りから浮いた発言が増えるようになっていきました。この様子を感じ取った A 様が今まで考えていたことを口に出せるようになったのではないかと思います。

【取り組みと結果】

真っ先に行った取り組みとして、A 様の家族と相談し利用日の調整を行いました。

利用日 火木土 → 火木日 へ変更（現在は火木金日）

A 様が特定の利用者様と顔を合わせる機会を減らす意味と利用者人数の少ない日曜日を利用することにより

穏やかに過ごせる時間が増えることを期待してのことです。A 様は、夕食まで利用の方ですが夕食時にはほとんどの利用者様が帰宅している状況です。一人になることもありますその時の様子はというととても落ち着いていて穏やかです。ただし、常にそのように一人でいる時間や、特定の利用者様がいない時間を作るということは利用の頻度等から厳しく利用が重なる曜日も少なくありません。

そこで、日ごろの業務に、席順の決定を行うようになりました。以前までは、特に利用者様の席を決めることはなく来所した順に好きな席に座っていただいていたのですが A 様の隣、正面、または目に入る位置、利用者様同士の相性などを、職員で来所前に打ち合わせし自然に指定した席へ誘導するようになりました。

また、接触を自然に減らす方法として、入浴の時間をなるべく他利用者様が集まる前に行うようにしています。このようにしてからは、比較的拒否が少なくなりました。

【ルールを守らないための怒りについて】

A 様は、(本人の中での)ルールを守らない人を見ると怒ってしまいます。

一例を紹介します。

利用者様全員で歌集を見ながら歌を歌っている状況

～1 曲目を歌い終わったところ～

A 様「次は何(なんの歌)?」(歌が大好きなため上機嫌)

他利用者様 + 職員 (1 曲目の歌についての思い出話をして盛り上がっている)

A 様「うるさいよ! 今は歌をうたっているから!」(周りの笑い声に急に不機嫌になりテーブルを叩く)

周りの利用者様は委縮してしまう。

【意味づけ】

前提として集団行動に関して勝手にふるまってしまうことが多い中、歌に関しては積極的に参加されることが多いため歌のレクリエーションを取り入れています。しかし、逆に“今は皆で歌をうたう時間”という考えの中で、歌を歌っていない周りの利用者様や職員は悪いことをしているという考えになっているように思います。本来であれば、利用者様達の思い出話が主で歌はオマケでもいいのではないかと考えます。しかし、A 様が参加している時の歌のレクリエーションでは、“ほぼノンストップで歌をうたいつづける”という形になってしまいます。

【取り組みと結果】

1、カラオケの導入

カラオケであれば全員で歌を歌う必要はないはず。歌う人と聞く人がいるため歌わない人がいても自然な形で対応できると考えました。しかし、カラオケに対する理解が曖昧なため予想より効果は得られませんでした。今後も続けて様子を見て行きたいと考えています。

2、個別対応

基本的に A 様が来所されている際は、職員が隣に付き添います。利用者様同士ではコミュニケーションを取りにくく、トラブルが起きる可能性が高いためです。また、A 様と他利用者様とのかかわりに対して離れる時間を作るため、個人での散歩、花への水やり、お菓子作り、職員との買い出しなど様々な個別対応を行いました。一人、または少数では、穏やかで笑顔が多くみられています。ただし、やはり本人としても利用者様達の輪に参加したい、一緒に過ごしたいという思いがあるのかしばらくすると輪に入ろうとするしぐさがあり、職員の声掛けに再び参加されることもあります。そんな時は職員が付き添い集団の中でコミュニケーションが取れるよう手助けします。

【まとめ】

A 様がよりよくスーパーデイようざんで過ごしていただけるように日々どうしたらよいかを考えいくつかの取り組みを紹介させていただきました。結果は正直わかりません。A 様に対してこれをすれば大丈夫ということはまだ見つかっていません。もしかしたらないのかもしれませんが。それでも A 様がスーパーデイようざんで気持ちよく過ごしていただけるように我々は、取り組みを考えて継続していこうと考えています。そのように

我々が頑張れるのも A 様はお客様が見えれば席を立ち「どうぞ座ってください」、怪我をした利用者様を見れば「大丈夫？すぐよくなるよ」などと声をかける優しい方だということを、我々職員は取り組みや日ごろの接していることでよく知っています。これからも A 様が怒ることがあると思います。そんな時「なんで A さん怒ったの？」と職員同士、優しい気持ちで話し合い接していきたいと思っています。A 様これからもよろしくお願いします。

コトバの中に

スーパーデイようざん小埜

関口美穂 遠藤尚美

◆はじめに

「すみません、都合で送ってください」「電話でタクシーを呼んでください」

今日もA様は、昼食後の一番忙しい時間帯に何度も言われる。その都度対応しているが、2,3分経つと同じことを言われる。

他者との関わりのなかで、相手の本当の気持ちを知ることは難しい。認知症により自分の気持ちや思いを適切に伝えられず、何度も同じことを言われることがある。それを私たち支援者は、帰宅願望や短期記憶障害、行動障害などと表現し、その人の言葉の中にどのような気持ちがあるのかを理解していない現状がある。

スーパーデイようざん小埜では、ある利用者様の言葉の中に秘められた気持ちを探るためにひもときシートを活用し、そこから行ったケアについて紹介する。

◆事例対象者

利用者様:A様(要介護2)

生年月日:昭和12年2月13日

既往歴:狭心症、アテローム性脳血管症

アテローム性脳血管症を発症し、入院中に認知症が進行。

向精神薬副作用による嚥下困難。

生活歴:地元の短期大学を卒業後、営業の仕事に3年間従事していた。実母の始めた食堂の仕事に転職。29歳ころ栄養士をしていた奥様と結婚し2男に恵まれる。事業を拡大し現在は25名の従業員がいる弁当会社を経営している。

◆ご利用開始前

A様は、平成27年にアテローム性脳血管症を発症してから転院を繰り返される。入院中に認知症の症状が現れ、次第に進行。退院後に入所した老人保健施設では、他利用者を奥様と誤認し追いかけまわす、手をあげるなどの行動がみられたとのこと。認知症状の改善の為に薬の影響により嚥下困難で食事が摂れなくなり、会話も無く意欲も低下し、A様らしさを失いかけていたという。薬の変更後、徐々に回復し、週末にご自宅へ帰ることが可能になり在宅復帰となる。平成28年1月、スーパーデイようざん小埜のご利用を開始される。

◆A様の行動

性格は寡黙で人見知りするタイプで、優しいが短気で待つのが嫌いである。A様の性格上、デイサービスに行くことは抵抗があるはず。私たちがお迎えに行くと、いつも用意をされて待っていて下さる。ご家族に、「行きたくないと言ったり、明日もようざんか、嫌だなあと言ったりすることはありますが、朝になるとしっかり起きて待っているんです。」と教えていただく。それは「人を待たせてはいけない。迷惑をかけてはいけない。」というA様の信念である。

入所中の行動が記された情報書には、「帰宅願望あり外へ出ようとされる」「エレベーターに乗って歩いて帰ろうとされる」とあった。そこで利用中、「帰りたい」と訴えがあったときには、ご本人の訴えを傾聴しながら、一緒に散歩やドライブに行くことで気分転換を図ってみようと職員間で事前に話し合っていた。

2、3分おきに「すみません、タクシー呼んでください」と職員へ頼まれる。その都度説明をするも、すぐに同じことを繰り返される。時には、「用事があるから家に電話してくれ」「送ってもらえないなら歩いて帰るから外に出してくれ」と、強い口調で訴えられる。A様が安心してここにいられるようにするためには、どのようにお答えしたら良いのか、なぜそのようなことを言われるのか、何度も話し合った。奥様にお話を伺うと、「老人保健施設の職員からバスが遅れているみたいだから、もう少し待っていてください」と言われたことに対し、「バスなんか乗らないのにとがっかりしていた」というエピソードをお聞きする。納得させるための声掛けは、A様の思いを全く尊重していない事に気付く。A様は、職員がその場しのぎの対応をしていることを見抜き、それでも訴えていたのだ。

◆ご家族の思い

病気を発症してから在宅復帰までの8ヶ月の間にA様に起った変化は、ご本人だけでなく、ご家族と食堂の職員の方々には大きな影響を与えた。ご家族と食堂の職員さん達の間には、素晴らしいルールがある。それは、「A様に役割を与え、子供扱いしないこと」である。食堂の職員さんは、A様のことを「会長」と呼ぶ。そしてご家族は、A様が時々仕事場に立つ時には、役割を持たせ、意見を聞き、尊重している。「仕事場にいられると本当は困るんですけどね」と笑いながら話す奥様。ご家族の介護力と愛情に感動した私たちは、A様とA様のご家族のために、少しでも力になりたいと思った。

◆ひもときシートを利用し、A様の気持ちを理解する

A様は繰り返される言葉の中で何を伝えたいのか。私たちはそれを探るために「ひもときシート」を活用することにした。「ひもときシート」とは、認知症介護研究・研修東京センターにおいて開発されたものである。援助者の思いこみや試行錯誤から脱け出すために、シートのそれぞれの段階で「評価的理解」「分析的理解」「共感的理解」の考え方を学び、援助者中心になりがちな思考を本人の気持ちにそった対応に変えて、課題解決に導こうとするツールである。

A 課題の整理 I 援助者が感じている課題(援助者の評価的理解)

- ①職員が対応しきれない昼食後に、「タクシーを呼んでください。都合で送ってください」と言われる。
- ②何度も説明するが、すぐに同じことを繰り返される。
- ③他利用者様が注意するときもあり、そうなると利用者間でトラブルが起こる。

B 課題の整理 II 援助者が想定する対応・方針

あなたはこの方に「どんな姿」「状態」になって欲しいですか。

・事情を説明すれば納得していただいて、何度も同じことを言わなくなる。

そのために、当面どのような取り組みをしたいと考えますか。

- ①説明において、ご本人の尊厳を傷つけないように答える。
- ②同じことを何度も言われても、初めて聞いたように関わる。
- ③ドライブや散歩をして気分転換をする。
- ④軽作業のお手伝いを頼む。

C 本人の状態や状況を事実に基づいて確認してみよう(分析的理解)

(昼食が終わると毎回)「タクシーを呼んでください。都合で送ってください」と訴える

【A 様へ質問】

「なぜいつも昼食の後、送ってほしいと言われるのですか？」

【A 様の回答】

「その時間に出かけたいんだよ」

「その時間に帰れないのは分っているんだけど、短気だから待てないんだよ」

「ようざんから歩いて帰れないから、車で送ってもらおうと頼んでるんだよ」

【ご家族より】

「前の入院施設の時も同じように言っていました」

「その時間に楽しみがないから帰りたいのかな」

「今まで言わなかったのだが、自宅でたまに『寂しい』と言うんです」

「温泉施設やパチンコなどにも連れていくが、パチンコもそんなに楽しそうにはやっていないです」

D 課題の背景や原因等の整理(共感的理解)

- ①弁当会社で社長をしているときは、仕事が終わるとパチンコや競輪などをされ、土曜日は帰ってこないことが多かった。
- ②短気な性格なので、待てない。
- ③その時間に本人がやることがないから。
- ④職員が昼食後に利用者様などの口腔介助や後片付けなどでバタバタしていて、A 様になかなか関われないことがある。

E 事例に書いた課題を本人の視点に置き換えて考える

- ① 退屈だから外に出かけたい。
- ② 短気だから待てない。
- ③ 脳梗塞になったから少しのことでも怒りやすくなっている自分を理解している。
- ④ ようざんから歩いて帰れないので、タクシーを呼んでもらいたい。
- ⑤ 職員が忙しいのもわかるから、タクシーを呼んでもらえば迷惑をかけずに帰宅できる。

F 課題解決に向けた新たなアイデア

- ① 昼食後、A 様が「送ってくれ」と訴える前に、職員が先に声をかけて密に関わる。
- ② A 様の楽しみや役割を、デイサービスで見つけるようにする。

◆ ひもときシートの活用を経て～A 様らしさを引き出すイベントの実行～

このひもときシートを活用したことで、A 様への理解が深まった。「なぜ今タクシーを呼びたいと思っているのか」と考えて、しっかりとこたえていくように変わっていった。短期記憶障害のため何度も繰り返されるが、その都度職員が「大丈夫ですよ、お待たせしてしまってすみません。」「退屈だと、外に出たくありませんよ。」「お帰りの時間まで、一緒に外を散歩していただけますか。」など、A 様の思いを受けとめた対応により、A 様が易怒的になることは減り、「悪いな。ありがとな。」と穏やかな表情になられた。

私たちは、A 様に役割をもっていただき、楽しみを見つけてほしいとの願いから、A 様と一緒に作ったお弁当を昼食にするイベントを企画した。

普段、お弁当の献立作成にも意見を出しているという A 様に、ある日の昼食のメニューを見せ、ここにもう一品加えるとしたら何を作るか考えていただいた。すると、「なすがあるといいから、なすの炒め物を添えるといいよ」と言われた。

後日、A 様と一緒に近くのスーパーに買い物に行く。「このなすは高知県産だね。これがいいよ」「玉ねぎもあるといいね」「香りづけにニンニクもあるといいよ」「ゆでたブロッコリーもあると彩りが増すよ」「ひき肉がなければ、この肉を買って適当な長さに切れば、ひき肉の代わりになるよ」と言われる。素材を見たり、アイデアを提案したりする A 様は楽しそうであった。

買い物に行ってから、A 様が提案したなすの炒め物の調理を行った。白衣と調理帽を身にまとった A 様は次々と職員に指示を出される。「このしめじの石づきを取ってください」「にんにくは砕いてから皮を取るといいよ」「味噌と砂糖をお椀にといてから炒めよう」「食べる人は甘口がいいのかな、辛口がいいのかな」…炒める時もフライパンに油をひいてから、刻んだにんにくを炒め、手際よく切った具材を順番に入れていく。フライパンを握った姿は一料理人として立派に見えた。

一緒に行った女性職員も「主婦の手抜き料理しかしていなかったが、料金をいただく弁当を作っていた A 様からいろいろ料理方法や工夫を教えて頂いた」と感心した。

配色用の弁当箱を用いて、おかずの盛り付けをしたり、みそ汁やご飯をよそったりしていただく。テーブルも拭いてくださり、無事に弁当が 12 時に提供できた。他の利用者様も「いつもと違ってお

いしく感じるね」「このなす炒めおいしいね」とおっしゃっていた。A 様も「また、いつでも言ってください。作りますので」と笑顔でおっしゃってくれた。

◆考察・終わりに

A 様がデイサービスの利用に慣れてきた頃、一緒に散歩をしているとこんなことを言われた。「帰るわけじゃないんだから、大丈夫だよ。競輪に行きてえんだ。」

今回ひもときシートを活用して、A 様本人の言葉の中の気持ちを探ることができた。A 様は職員が忙しいことを理解しているものの、外に出かけたい気持ちがある。そして職員の説明に納得するも、認知症のために忘れてしまう。私たち介護士は、自分の都合や思い込みで利用者様と関わるのではなく、利用者様の言葉の背景を知り、それに合った対応をしていかなければならないと改めて感じた。そしてその人らしさや個性を尊重することで、利用者様との信頼関係が深くなっていくのではないだろうか。

ある日のふれあいノートに奥様がこんな言葉を書いてくださった。「朝の日課を済ませ、新聞を広げながら旅行案内のチラシが入っているかと聞き、どうするのかと思ったら、私を旅行に連れて行ってやりたいと言うのです。そんな思いやりがすごうれしく、ここまでになったかと感無量です。普通の夫婦の会話なら何でもないことですが、我が家では大ニュースです」

ご家族によると、スーパーデイようざん小埜を利用してから、初めて笑顔を見せたりするようになったとのこと。息子様は「父親がそんなに好きではなかったが、今では大好きになった」とおっしゃった。奥様も「今まで主人と 50 年ぐらい一緒にいるが、そんなに感情豊かな人ではなかった。この頃、感謝の言葉を言ってくれたり感情表現を表したりするので、主人の今まで見えていなかった一面を発見できた」とおっしゃった。

ひもときシートで学んだように、言葉の裏に様々な思いや気持ちがあり、その真意を踏まえることの重要性が理解できた。A 様の生活歴や様々な情報を踏まえたうえで役割や楽しみを見つけていく。そのことで A 様の持っていた能力を引き出し、生活を活性化させる。それも認知症対応型通所介護に与えられた使命である。

それぞれの利用者様の言葉の中の気持ちを探り、役割や楽しみをともに見つけられるケアを行っていきたい。

ひもときシート

A 課題の整理 I あなた（援助者）が感じている課題

事例にあげた課題に対して、あなた自身が困っていること、負担に感じていることを具体的に書いてください。

- ・職員が対応しきれない昼食後に、「タクシーを呼んでください。都合で送ってください」と言われる。
- ・何度も説明するが、すぐに同じことを繰り返される。
- ・他利用者様が注意するときもあり、そうすると利用者間でトラブルが起こる。

B 課題の整理 II あなた（援助者）が考える対応方法

①あなたは本人にどんな「姿」や「状態」になってほしいですか。

事情を説明すれば、納得していただいて、何度も同じことを言わなくなる。

②そのために、当面どのようなことに取り組んでいこうと考えていますか？あるいは、取り組んでいますか。

- ・説明において、ご本人の尊厳を傷つけないように答える。
- ・同じことを何度言われても、初めて聞いたように関わる。
- ・ドライブや散歩をして気分転換をする。
- ・A様のお話を聞いたり、マンツーマン対応をしたりして気分を変えていただく。
- ・軽作業のお手伝いを頼む。

(1) 病気の影響や、飲んでいる薬の副作用について考えてみましょう。

- ・アンブロキソール塩酸塩徐放 OD錠 45mg・痰を切れやすく出しやすくする
- ・バイアスピリン錠 100mg・血を固まりにくくする
- ・アプロピール錠 100mg・高尿酸血症や通風
- ・マグミット錠 500mg・胃炎改善、弁を柔らかくする
- ・ロゼパム錠 1mg・不安緊張憂鬱を軽減
- ・抑肝散・神経症、不眠症、夜泣き

(2) 身体的痛み、便秘・不眠・空腹などの不調による影響を考えてみましょう。

- ・本人はよく眠れているというが、ロゼパム錠などを飲んでいる。
- ・昼間にソファで傾眠されているときがある。
- ・便秘とかはない。
- ・不眠は無いが18時ごろに床に就くため、朝は早く起きる。床には就くが、ベッド近くのテレビを見ている。

(3) 悲しみ・怒り・寂しさなどの精神的苦痛や性格等の心理的背景による影響を考えてみましょう。

- ・家族が仕事をしている間に、デイサービスに行かなければならないという気持ち
- ・帰りたいのに帰れない。帰ることを職員に阻止されている怒り。
- ・デイサービスに行きたくない日もあるが、決まった時間に迎えに来る職員がいるため、早めに用意して玄関に待っている。
- ・本当に送ってもらえるのか不安になっている（そのためのタクシー代をいつも持っている）。
- ・家族より「寂しい」と訴えある。

(4) 音・光・味・におい・寒暖等の五感への刺激や、苦痛を与えていそうな環境について、考えてみましょう。

- ・賑やかな他利用者様がいると、「うるさくてしょうがないと、頭がおかしくなる」と、訴える。
- そのような利用者様がいる時には、午前中から「帰らせてください。静かにしろと言ってください。ああいう馬鹿の近くにいると頭が痛くなりそうだ」と言われる。

C 課題に関連しそうな本人の言葉や行動を書き出してみましょう

あなたが困っている場面（Aに記載した内容）で、本人が口にしていた言葉、表情やしぐさ、行動等をありのままに書いてください。

昼食後に職員を呼び止めて「帰りたいので、タクシーを呼んでください。都合で送ってください」と何度も同じことを言われる。事情を説明しても、数分経つとまた同じことを繰り返され、易怒的状況になる

(5) 家族や援助者など、周囲の人の関わり方や態度による影響を考えてみましょう。

- ・休みの日は日帰り温泉に連れて行っている。
- ・従業員も、敬意をもってA様にかかわっている。
- ・家族もA様の好きなパチンコ屋に連れていっている
- ・デイサービスの職員も本人がお好きなドライブによく連れていき、気分転換を図っている。
- ・かかわりの仕方、易怒的状態になるので対応には誠意をもって説明している。

(6) 住まい・器具・物品等の物的環境により生じる居心地の悪さや影響について考えてみましょう。

- ・脳梗塞の影響で、左腕などが不自由である。ベッドなどでの起き上がりなども苦労している。
- ・ベッドが介護用品ではなく、一般の物であるため床からの高さが高い。ベッドの横にある椅子を手すり代わりにしている。
- ・また、自宅の2階で寝ているが、階段の上り下りがきつい。手すりが無いと階段を上ることができない。

(7) 要望・障害程度・能力の発揮と、アクティビティ（活動）とのズレについて考えてみましょう。

- ・食事を召し上がったあと、台布巾で机を拭いて下さる。
- ・慰問などは嫌いではないが、中座をすると失礼にあたるため、最初から参加しない。
- ・ドライブなど出かけるときは好きである。

(8) 生活歴・習慣・なじみのある暮らし方と、現状とのズレについて考えてみましょう。

- ・昔は弁当会社の会長として事業を大きくしていた。今は、息子に経営を任せている。
- ・今は献立作成などの時は参加されるときもある。的外れな意見は言っていない。

D 課題の背景や原因を整理してみましょう

思考展開エリアに記入した内容を使って、この課題の背景や原因を本人の立場から考えてみましょう。

- ・何か不安なのではないか。
- ・性格的に待てないのではないか。
- ・人の注意を惹きたいのではないか。

E 「A課題の整理 I」に書いた課題を本人の立場から考えてみましょう

「D 課題の背景や原因の整理」を踏まえて、あなたが困っている場面で、本人自身の「困り事」「悩み」「求めていること」は、どのようなことだと思いますか。

- ・外に出かけたい
- ・ようざんから歩いて帰れないので、タクシーを呼んでもらいたい。
- ・脳梗塞になったから少しのことでも怒りやすくなっている。
- ・短気だから待てない。

F 本人にとっての課題解決に向けてできそうなことをいくつか書いてみましょう

このワークシートを通じて気づいた本人の気持ちにそって⑦今できそうなことや⑧試せそうなこと⑨再度の事実確認が必要なこと等をいくつか書いてみましょう。

- ・A様の性格や生活歴を再度職員同士で話し合い、A様の考え方について理解を深めるようにする。
- ・昼食後のA様の訴えの前に職員がなるべく密にかかわる。
- ・A様の楽しみや役割を見つけるようにする。

STEP1 1 評価的理解
援助者として感じている課題を、まずはあなたの視点で評価します。

STEP2 2 分析的理解（思考展開エリア）
根本的な課題解決に向けて、多面的な事実の確認や情報を整理します。

STEP3 3 共感的理解
本人の視点から課題の解決を考えられるように、援助者の思考展開を行います。

120歳まで生きる

～お父さん、歩かなきゃダメ！～

スーパーデイようざん貝沢

発表者：須田瑞穂

【はじめに】

家族とはお互いに支えていくものである。しかし、近年では老老介護による共倒れが起こり、介護をする側にもされる側にもつらい結果となってしまうことが増えている。

中でも認知症の方の介護は大変で、別人ようになってしまったり、家族のことを忘れてしまったりなど、介護者に精神的な苦痛をもたらしてしまう。

今回は認知症を患う90代の父と母を、娘一人で介護しているという一家に焦点を当ててみた。

母は体が元気で家事などを一通りは行ってくれるものの、頑固で時に暴言があり徘徊してしまう。プライドが高く介護拒否が強いため、失禁にて下着が汚れていても交換できない。

父は全身の筋力低下が激しく、目は殆ど見えていない状態で全てにおいて介護が必要である。認知症の進行により記憶障害が激しく、理解力も低下している為、介護をしようにも“何をされるかわからない”という不安からか拒否が強い場合がある。何より娘さん自身が日々体調不良を訴えており全介助の父を介護することが難しく、共倒れに近い状況にある。しかし、娘さんは「両親ともに長生きする。120歳まで生きる。」と話されている。

それだけでなくご自身の介護負担の軽減の為、高齢でほぼ盲目である父に対し「父を歩かせてほしい、歩けるようになってほしい、歩かなきゃダメ。」と話されている。

私たちはご両親の年齢的にも、また娘さんご自身の持病的にも無理だと思ったが、“共に暮らしていきたい”という娘さんの強い気持ちに強い感銘を受け、できる限りニーズに応えていきたいと考えた。

今回は家族のニーズに応え、親子それぞれの思いに寄り添ってケアを行った経過を報告する。

【利用者様紹介】

氏名：A様 性別：男性 年齢：95歳

要介護度：5

既往歴：認知症、白内障、緑内障

8年前に心臓バイパス手術

氏名：B様 性別：女性 享年：93歳

要介護度：3

既往歴: 認知症、白内障、高血圧

【デイサービスに至った経緯】

夫のA様が自宅にて階段から落ち骨折、入院する。その際に認知症との診断を受ける。
続けてB様も検査を行うと認知症と診断を受け、専門的なケアと介護者の負担軽減のためお二人同時にスーパーデイようざん貝沢を利用開始となる

【それぞれの思い】

《娘さんよりA様への希望》

- ・しっかりとご飯を食べてほしい
- ・食事、水分を自力摂取してほしい
- ・デイにて排便をしてほしい(排便コントロールをしてほしい)
- ・歩けるようになってほしい
- ・自分で立って動いてほしい

《B様よりA様への思い》

- ・自分で歩けるはず
- ・自分で食べられるはず
- ・何でも自分でできるはず
- ・できないならば私が手伝いたい

《A様本人の思い》

- ・とにかく眠い、いつも寝ていたい
- ・体が痛くて動けない、動きたくない
- ・見えないから何もわからない
- ・食べる、飲むことがどういう事かわからない
- ・無理なことはしたくない

《家族全員の思い》

- ・長生きする、120歳まで生きる

【目的】

家族全員が、お互いに長生きすると話されている。
なので、娘さんの介護負担の軽減、A様の日常生活における介護、B様の気持ちに寄り添った介護など、家族全員のケアを行い、より健康に長生きしていただく。
そのために、家族それぞれのニーズに応じていく。

【課題】

- ① 食事をできるだけ取ってもらう
- ② 水分もできるだけ取ってもらう
- ③ 体を動かし身体機能の維持、向上に努める
- ④ 排便コントロールを行い、自宅でなく来所中に排便ができるようにする
- ⑤ 何事をするにも意欲低下が激しいため、意欲を向上させる

【取り組み】

B様は、トイレ・入浴以外のことはご自分でできる方で身体的には殆ど問題がない。またA様に対し歩いてほしい、できないことを自分が手伝いたいという気持ちが非常に強い。なので主にA様のケアを行い、それをB様に手伝っていただくことでB様の精神安定も図りつつ、ご家族全員のケアへ繋げていく。

《食事提供について》

歯が無いため、最初はミキサー・粥にて提供。しかし、自宅では常食を提供しているとの話があったので常食・米飯に変更する。

その後、認知症が進んでしまったためか咀嚼を忘れてしまったり説明しても理解できない事が増え始め、食べている途中で眠ってしまうことも増えた。

固形物が口に入ると吐き出してしまうことも多くなったため、咀嚼、嚥下のしやすいミキサー・粥に戻す。

その後、粥の米粒も吐き出してしまうことが増え、粥をペースト状にして提供している。

…B様のA様に対する取り組み

A様の隣にてご自身も食事をしながら、A様に対し声掛けをして食事を促してもらう。また、に応じて食事介助を行ってもらう。

…結果

A様のその日の調子によって食事の形態や食事を摂取できるかは大きく左右されるが、調子の良い時は食べられることが多い。しかし、混乱している時や傾眠が強いと全く食べられない時もある。

妻の声かけにより食べられる事多いが、職員の声かけには妻ほどの反応は無い。

B様は職員がA様の食事介助をしている様子を見ると申し訳なくなってしまう、食事もままならなくなってしまうが、A様に対し声かけや介助などの役割を持つと落ち着かれる。

《水分摂取について》

冷たいものが苦手なため、常に温かいものを提供。せん妄強く傾眠も強いいため、起きているときに

できるだけ声をかけて水分摂取を促すも拒否することが多い。飲み込むということが理解できない時があり、口に含んでも出してしまう。水分に強いとろみをつけると食べ物のような感覚で摂取できるので、その時の調子により変更して提供する。

水分摂取票を作り、その日にどの程度摂取できたか記録する。

…B様のA様に対する取り組み

職員の水分摂取の促しに合わせ声かけを行う。また、介助して頂く。

…結果

A様は、段々と水分とれる日が多くなってきた。水分を多く摂取できれば傾眠が少なくなる様子が見られるものの、拒否強く飲めない場合も多々ある。

妻の声かけには素直に応じることが多いが、声をかけられすぎて混乱する様子も見られた。

B様は頻繁にA様に声をかけ、水分を進めるも混乱するA様に苛々することが多かった。

〈機能訓練について〉

目が見えず、職員の声かけを理解できない場合が多く、自ら動いて頂くことが難しいので、職員が手足のストレッチを行う。座位を保つときに体が傾いてしまう様子が見られるので、ベッドやソファに座り、上体を揺らして体幹のトレーニングも行う。

体調が良さそうな時、気分が乗った時はラジオ体操などの健康体操へも参加を促し、体を動かして頂く。

手すりに掴まり、介助しながら立ち上がりの練習も行う。

…B様のA様に対する取り組み

体操を行う際はA様へ参加を促す声かけをしてもらい、手足を動かす手伝いをして頂く。

“A様は立てる”という意識が強いためか、A様の立ち上がり練習に熱心に参加され、A様の調子が良い時は車椅子を押してシルバーカーの代わりにし、歩行練習の介助や声かけを自発的に行っていた。

…結果

A様は大きな変化は見られないが、ストレッチをした日は立ち上がりが非常に良くなるなどの様子が見られた。

立ち上がり、または歩行練習の後は興奮してしまい、その後のトイレ誘導の際の立ち上がりなどの時に強い拒否見られるようになってしまった。

B様はA様に対し“歩いてほしい”という思いが強く積極的に取り組まれ、生き生きとされていたが、B様が積極的でもA様が積極的で無い事があり「どうしてやらないの！」と怒ってしまう様子が見られた。

《排便コントロールについて》

排便をするには食事、水分、運動が必要だが、食事と水分の摂取にむらがあり体力も低下している為、運動量も少ない。そのため排便コントロールが難しいので、便秘解消の足つぼマッサージやトイレ誘導時に腹部のマッサージを行うなどして、できるだけ来所している間に排便ができるように促す。

また、定期的にマグラックスを服用する。

…B様のA様に対する取り組み

トイレ誘導時に排便を促す声かけをしていただき、できるだけ来所しているときに排便ができるように促す。

…結果

A様はマグラックスの服用により来所中に排便ができることが増えたが、それによって便が緩くなり我慢できなくなってしまったのか、自宅で便失禁することも増えてしまった。

しかしマグラックスを服用しなければ便秘になってしまうため、完全なコントロールは難しい。

B様は、A様にとってデリケートな問題のためあまり深く関わってもらわないようにした。しかしA様に対し依存が強いため、姿が見えなくなると不安になりトイレを覗こうとしたりしてしまうことがあった。

《意欲向上について》

認知症の進行により何事に対しても意欲低下が激しいため、A様が好む会話をして気分を盛り上げ、意欲向上につながるように努める。また生活歴を考慮し、A様になじみのあるカラオケを取り入れたレクを積極的に取り入れる。

…B様のA様に対する取り組み

主に声かけなどを中心に行い、A様が精神的に安定するように努めて頂く。

…結果

A様は何かする前に必ず気分を上げておくと、拒否なく意欲的に何事も行えていることが多い様子。しかし、職員への対応と違ってB様に対して強い口調で返答してしまうためお互いに不穏になってしまう様子が見られた。

B様はA様に対し「帰ろう！」と帰宅を促してしまうので、B様の声かけによりA様が不穏になってしまった。お互いに帰宅願望を強く訴え始めてしまう様子が多く見られた。しかし機嫌が良ければ二人で唱歌等を歌って穏やかに過ごすことができる。

【考察、まとめ】

全体的にA様もB様も、職員よりも家族からの声かけの方が快く応じ、意欲的になっていた。どんなに良いケアをしても、何事をするにも他人よりも家族の言葉の方が何倍も強く、信頼していることを再確認させられた。

意識がはっきりしている時としていない時にむらがあるため、はっきりしている時に運動を促し、できる範囲で無理せず身体機能の維持、向上に努めていかなければいけない。

食事、水分の摂取はA様が「飲み込む」ということが理解できなくなっているため飲み込める時にできるだけ摂取して頂く必要がある。

排便コントロールについては食事、水分の摂取にむらがあるため、それらがしっかりできた上でコントロールしなければならないので今後の課題である。

【最後に】

この事例を行っている途中、最終段階に差し掛かった時点でB様が事故にて亡くなられてしまった。A様は短期記憶障害が顕著なため、B様が亡くなられてしまったことを理解できていないと思われるが、目に見えて意欲低下が進み以前にも増して体が動かなくなっている。食事や水分摂取もできなくなっており、ADLの急激な低下が見られるようになった。毎日頻繁に「母さん！」とB様を呼び、B様来ないことを不安に思っている様子が見られるようになってしまった。

私たちは今回、B様が亡くなられたことにより改めて家族の大切さを痛感させられた。B様はもういないので、A様や娘さんの心に空いた穴を埋めることはできない。しかし家族のように寄り添い、ケアをしていくことはできる。

私たちはこれから、A様にとって第二の家族になれるように、お二人の気持ちに寄り添い、安心の出来る温かいケアをしていきたい。

「デイサービスはもうーの家だよ」

～自宅からサービス付高齢者住宅に住居が変わっても～

デイサービスようざん並榎

発表者:幸 知美

【はじめに】

近年「少子・超高齢化社会」を象徴する現象として「独居老人」すなわち「一人暮らしのお年寄り」に関する問題がクローズアップされるようになりました。デイサービスようざん並榎も例外ではありません。利用されております3分の1以上の利用者様は一人暮らしの方です。認知症独居老人の問題は、物忘れから起きる、事故や健康面での心配だけではなく、独居だと認知症だと気づかないまま症状が進行していくことがあります。

A様は認知症が進み地域での一人暮らしの限界を迎えられ、サービス付高齢者住宅に入所となり、週6回デイサービスをご利用されています。住居環境が変わり精神的な落ち込みや不安・不信感から認知症の進行が顕著に見られるようになった時、A様の「夢のある暮らし」実現に向けて、自ら動こうとする意欲・活力を引き出す、楽しめる活動や取り組みを行い「家に帰れなくなったけど、デイサービスは私のもう一つの家だよ」と生きる力が湧き、安心した生活を取り戻していった事例をここに報告致します。

【事例対象者紹介】

氏名:A様 年齢:89歳 性別:女性

介護度:1 アルツハイマー型認知症

家族構成:夫は数年前に他界。お子さんはおりません。

キーパーソン:姪のY様(以下Y様と表記)

性格:自己主張が強いが明るく社交的な性格です。

社会的交流:88歳まで得意な習字を公民館で教えられ、

習字のお弟子さんとの交流も図れていました。

【デイサービス利用の経緯】

A様は地域との交流を図りながら、何とか88歳まで独りで生活を支えられてきましたが、家事は殆どできず、家の中は物が積み上げられ、足の踏み場も無くゴミ屋敷状態でした。着替えや身だしなみも整えられなくなり、死んだ猫と数日間一緒に布団で寝ている報告もありました。お金の管理も出来なくなり、衛生面や火の始末の心配だけではなく、認知機能が低下されていても車の運転をまだされていたので交通事故の危険もあり、地域での一人暮らしの限界を感じるようになりました。

また近年まで、公民館でお習字を教えていましたが、お習字教室の日が分からなくなり、キーパ

一ソンの姪っ子の Y 様が、そろそろ独居生活の限界を心配され、週4回のデイサービス利用が開始となりました。

【デイサービス利用当初の様子と課題】

①見当識障害による連れ出し困難

A様は曜日の理解が出来ず、朝2度3度と訪問をしないと連れ出せない状況で、見当識障害が顕著に見られました。来所の拒否は見られませんでした。利用中は「今日はお習字教室の日だったから、今から家に送ってもらえない？」と精神的に落ち着かない様子が見られました。

②強い入浴の拒否

いくら丁寧にお誘いしても、「昨晚入ったからいいわ」「おしりが大きいから恥ずかしい」「男の人が見えたから入らないよ」など理由をつけて断られてしまいます。

①見当識障害による連れ出し困難での取り組み

【カレンダー作成】

お習字教室とデイサービスの曜日が分かる様にカレンダーを作成致しました。しかし、曜日が分からないため役には立ちませんでした。送迎前に自分の車で出かけてしまうこともあり、早朝1番に送迎を組んで対応し、当日の朝、電話をかけお迎えに行くことを伝えようと思いますが、寝ていて電話に出てもらえませんでした。

縁側の扉を叩いて起こす状況が約2か月続きました。

②強い入浴の拒否での取り組み

【職員の迅速な起点】

4か月後のある日のことでした。

「しばらくお風呂に入っていないから入ろうかな～」の小さなつぶやきを職員は聞き逃しませんでした。「大風呂は貸し切り風呂です、独りでゆっくり入れますよ」と女性職員がマンツーマンで対応を行い、更衣や洗身をご自身のペースで行って頂いたところ、まったく抵抗がなく「あ～お風呂が気持ちよかった、また今度入れる？」と満足され前向きな発言が聞かれました。

何日も入浴されていなかった様子が伺え、下着はよれよれガーゼのように薄くなっている状態で、A様は恥ずかしそうに更衣をしていました。入浴は嫌いではなく、汚れた衣類をみんなに見せたくないようでした。そこで Y 様に頼み衣類をデイで預かり洗濯管理することを勧めたところ、A様の様子が激変されました。洗濯された衣類がある事で安心されたようで「私のお風呂の順番まだ？」お風呂の予定がない日でも脱衣所の扉をガラッと開けて「今日はお風呂に入れてもらえないの？」というほどお風呂が大好きに変わっていききました。

【サービス付高齢者住宅 R へ入所の経緯】

利用当初の課題①②が解決し、デイサービスの利用にも慣れた頃、自家用車をご自身で運転して来所されてしまう事が何度も起こるようになりました。まだ自宅で過ごせると思っていたA様の思いとは別に、寒い冬の到来に健康状態や衛生面だけでなく、交通事故の危険性を親戚の方が特に心配され、本人の理解が難しいまま、昨年11月サービス付高齢者住宅 R に入所となりました。

入所されると認知症の進行や心身機能の低下が心配されますが、A 様も今までは見られなかった様々な周辺症状が見られるようになりました。

【サービス付高齢者住宅 R に入所当初の様子と課題】

①昼夜逆転

今まで昼寝をしたことがなかった A 様が昼食後爆睡するようになりました。

サービス付高齢者住宅Rからは、夜中荷物をまとめて廊下をうろうろされ、他者の居室に訪問して、お菓子やジュースを配り、糖尿病の利用者さんのご家族様からクレームがあり困っている報告を受けました。

サービス付高齢者住宅RではA様がいらっしゃる時間帯は、自動販売機全てに「故障中」の貼り紙をしてジュース等を買わない様に対応されました。

②物盗られ妄想

サービス付き高齢者住宅 R の備品のテレビ・壁時計、モップ・トイレトーパーなど様々なものを毛布の中に包んで毎日来所されるようになり「サービス付高齢者住宅 R には泥棒がいるのよ！」と訴えられる日々が続きました。

③夕方の帰宅願望

他の利用者様が帰宅される夕方の時間は「如何して自分の家に帰れないのよ？」と何度も訴えられるようになり、扉をこじ開けてドライバーの後を追おうとする事も度々起こり、「自分の家に送ってもらえないのよ！」と他の利用者さんにも大声で訴えられ不穏になってしまいます。

① 昼夜逆転への取り組み

「習字教室」の開催

楽しいレクリエーションに参加していても、自分の番が終わり次の利用者様が始めようとする時、「まだ私やってないわよ！私はなんでできないの！」と急に怒り出してしまうことがあります。ある時は、口の中にシューマイが入っていても「みんなのお皿には2個あるのに私のシューマイだけ1つだわ」と怒鳴り散らしたこともありました。自己主張が強く、仕切りたがりやですが短期記憶障害が顕著に見られ、病識欠如が見られます。そこでA様のプライドを傷つけず、楽しんで集中できる時間を提供することで昼夜逆転防止をしようと昼食後に特技のお習字を生かして「習字教室」を開

催しました。

食後一目散に、ソファーに座ってうたた寝をしてしまうA様でしたが「A様にお願い事があるのです」「私、習字が上手になりたいのですが、教えて頂けますか？」違う職員は「お祝儀袋の字が上手に書きたいのですが、なかなか上手になれなくて」と言うと、先ほどの表情とは一変し、A様の目が輝くのが分かりました。

「習字？どこでやる？道具さえあれば今教えてやるよ」と満面の笑顔

やはり、習字を教えていた先生だけではありません。腕はプロ級であることはもちろん。習字をしている時のA様の表情は真剣そのもので生き生きしています。習字教室を開催す度に職員に「字がお上手ですね～素晴らしい字ですね～」と褒められ「A様、教えていただいてありがとうございます」と感謝の言葉をかけられるとA様は、とても表情が明るくなり自信を取り戻せた様子でした。習字教室を開催してからは1度も昼寝をすることがなくなりました。また、この取り組みを始めてからサービス付き高齢者住宅Rより「夜、入居者様の安眠を妨害してしまうような迷惑行為がなくなり、居室で熟睡することが出来る様になりました」という報告を頂きました。

② 物盗られ妄想への取り組み

[A様の作品コーナーの設置]

サービス付き高齢者住宅Rにいる時の不安を取り除けるものは何があるのか？A様の様子を観察していると、職員と一緒に制作などを行っている間は不穏な様子は見られず、安心されているようにも思えました。また、職員と一緒に制作したものをデイサービスに飾ると「あれ私が作ったのよ」と、とても嬉しそうに話される姿が何度も見られました。サービス付き高齢者住宅Rにご自身で制作したものや職員がプレゼントしたものをお持ち帰りして頂いても、お部屋に飾ることはせず、デイサービスへ持ってくる傾向があることにも気が付きました。そこで、せっかく上手に作成された作品をデイサービスに[A様の作品コーナー]を設置することにしました。

短期記憶が障害されていても普段の様子から手続き記憶が優れており、手先も器用で細かい作業が苦にならないA様は、職員がチューリップやふくろうのぬいぐるみの手芸品を見せると「あら？何作ってるの？」「あら、かわいい。私で良かったら手伝うわよ」と興味を持って下さりました。作り方はすぐに忘れてしまわれますが、その都度、隣で何度も教えて差し上げると問題なく完成することができました。手芸をされている時は集中され真剣そのものです。「かわいいのができた～」何より自分で作ったことが一番嬉しく、達成感を感じられていました。作品をデイサービスに飾っておくと、いつもはすぐに物事を忘れてしまうA様ですが「これは私が作ったのよ」と何度も嬉しそうに話され、短期記憶が維持される事もあります。何かに集中していると不穏の様子が見られず、サービス付き高齢者住宅Rで、物が盗まれてしまうという被害妄想が少なくなってきました。

③ 帰宅願望への取り組み

「今日は住んでいた家に送ってもらえる？」と訴えが頻回の時は、正直にご家族がA様のことを心配してサービス付き高齢者住宅Rを契約してくれたことや、いつでも自宅の様子を見に行くこと

が出来ることを説明すると、大概の場合は納得して下さいます。しかし不穏が強いと、本当のことをお伝えしていても言葉だけではなかなか納得して下さりません。説明しているうちにそれぞれ始めてしまい、デイサービスの扉をこじ開けてドライバーの後を追おうとする事も度々起こりました。その様な不安が続くとA様が抱いていたデイサービスへの信頼感までが失われてしまうように思いました。

そこで、納得がいかない時は、気分転換にドライブへお連れして、A様の自宅の前を通るようにしました。すると、A様はご自身の目で家の破損状況や周りの腐敗した物を見ると「これじゃ、お家にお茶を飲みに来てもらうことも出来ないね。」と少し寂しそうな姿が見られましたが、修理しないと住めない状況を納得されました。一時の安心感にすぎませんでした。まだ家がある事を確認でき安堵されたようでした。

【考察・課題】

自宅で暮らす事がそれまでのA様の生活を支えて来たと思われまます。しかし認知症が進めばいつかは地域での一人暮らしも限界を迎えられる時がきます。「居住環境が変わる」ということは、私達の人生の中でも転機を迎える時であり、特に認知症状がある高齢の方にとって、環境の変化は、不安、緊張、不信感から様々な認知機能低下を進行することでもあります。

しかし、諦めずに機能の程度に応じて適切な支援を行えば、急速な認知機能低下を防ぐことが出来ます。

A様が自宅に戻りたいという想いは変える事はできませんが、尊厳をもって、その人らしい安心できる生活を送ることが出来るように支援するという事は、必要な介護を提供するだけではなく、本人が生き生きと役割や生きがいを持って暮らしていくことの出来る生活支援がなされなくてはならないと思います。

信頼関係を形成していく中で、私達がどうしたいのではなく、A様本人は何をしたいのか、何が出来るのか、どんな生活を望むのか、心の「思い」を察知して、それに沿った対応を心掛けていくことが重要なことだと痛感しました。

【おわりに】

一人暮らしの高齢者が増え続ける中、認知症だと気づかずに進行されるケースが多くあります。一人暮らしが問題ではなく、早めに認知症の発症に気付ける環境作りや、孤独を感じさせない様な取り組みをすることで、認知症状の進行を緩やかにしたり、認知症のリスクを防いだりすることが出来ると思います。

私達介護者は 精神的・身体的・社会的面からの自立支援を行い、本人の意思を最大限尊重した支援に取り組んでいくことが重要な事であり、それが地域包括ケアシステムの構築に繋がることだと思います。

「家に帰れないけど、ここはもう一つの私の家だよ、また明日来るからね～」と笑顔で帰られるA様の穏やかな表情をいつまでも見られるように 私たちは常にA様の心に寄り添い、幸せな未来へ続くお手伝いをしていきたいと思ひます。

「サンキュー」～そのひと言に支えられ～

スーパーデイようざん双葉

発表者: 榎田 千恵子

〈はじめに〉

デイサービスに向かう車中「ストン ストンと 戸を叩く ～ ♪」と軽快な歌声が聴こえてくる。大正末期の流行歌の「ストン節」がA様の十八番。気分が良いと唄いだす。転倒により腰椎圧迫骨折しほぼベッド上での生活となってしまった。難聴であり視力も低下しほとんど見えていない状態。不安な気持ちからか、時に怒りっぽく「お～い婆ちゃんはいないのか！」と奥様を呼ぶ。家では「まだ迎えに来ないのか」とデイサービスの迎えを待っているという。穏やかに安らかな日々を過ごしてほしい、できるだけ自分の手で最期まで住み慣れた家でお世話をしたいという奥様の思いを大切に、連携して支援した実践について報告する。

〈事例対象者様〉

性別: 男性

年齢: 88 歳(昭和2年生まれ)

要介護度: 要介護5

既往歴: アルツハイマー型認知症 胃癌全摘・前立腺癌・大腿骨骨折

〈家族構成〉奥様と二人暮らし。

〈生活歴〉

4人兄妹の長男としてA市に生まれる。

少年兵とし大東亜戦争を経験したことが本人の誇りになっている。

奥様とは29歳の時、妹の紹介で結婚し一男一女を儲ける。

大手企業に勤務し55歳の定年まで働く

定年後は職業訓練校へ行き、車の整備資格の取得や市の発掘調査の手伝いをしていた。

趣味はゴルフ、囲碁、将棋、自転車で散策するのが好きだった。

性格は明るく社交的ユーモアの持ち主、お孫さんの子守りや庭木のお手入れをするなどとても家族思いだった。

65歳頃から奥様と世界一周旅行を楽しむなど、いつも夫婦一緒だった。

〈利用目的〉

胃癌や前立腺癌、大腿骨骨折での入院生活を繰り返し、H20年頃からアルツハイマー型認知症を発症、H25年6月肺炎及びうつ血性心不全で入院するが、入院中ベット柵を乗り越えたり、点滴を自己抜去するなどの行為があり、家族付き添いを依頼され24時間対応を余儀なくされる。

主介護者である奥様も腰痛があり、デイサービスに行っている間リハビリをしたいご希望や介護負担軽減を目的として、退院後利用を開始する。

〈利用当初の様子〉

お気に入りの帽子と奥様手作りのベスト、顎鬚を蓄えた姿がとてもダンディーなA様。

テンポ良く、とても上手に歩行器を使って「おはよう！」とホールに入ってくる。

利用当初は何で自分がここに居るのか分からず「知らない人ばかりだから帰る」と不穏気味。職員が奥様役となり内線を使い電話をする。「うん うん そうか。」と話を聞き納得する。奥様の力は抜群だった。

たまたま同じ町内の知り合いの男性が利用することになり徐々に、デイサービスにも慣れ、仕事のこと、戦争に行ったこと、奥様と旅したことをお話してくださる様になった。

他利用者様との会話も多くなり冗談を言っては周囲を笑わせるほどであった。愛称は髭のおじいちゃん。お礼を言うときは小粋に片手をあげ「サンキュー」と言う。

ドライブが好きで車に乗ると上機嫌で「おっいいね、どこ行くのかな」と多弁になる。

奥様をお誘いし梨狩りに行った時はとてもいい表情をされていたのが印象的だった。

順調に利用されていたが……。

《緊急事態》

H27年4月30日 自宅で転倒し腰椎圧迫骨折してしまう。

〈奥様との連携〉

認知症ゆえに常に付き添いを求められてしまう為、奥様、ケアマネージャー、デイサービスで話し合い、入院はせずに状態が落ち着くまで長時間対応にてデイサービスを利用されることになった。自宅に車椅子昇降機を設置して送迎は自宅ベッドまで送り届けることとし、デイサービスではホール内にベッドを移動し常に状態を観察できるようにした。

〈食事〉

骨折以来食が細くほとんど食べられない。おかずを小刻みにして召し上がって頂くが少しでも硬い物が口に残ると「石ころだ～」と吐き出してしまう。

自宅では介護用のソフト食やA様が昔から好きな鮪のお刺身を小さく切って食べさせているとお聞きする。デイでもお粥とミキサー食に変更することにした。それでもあまり召し

上がって頂けない時はアイスクリームやプリンなど軟らかい物を召し上がって頂き栄養はエンシュアで摂るようにした。奥様もなんとか食べてもらおうとの工夫から磯部せんべいやたまごパンを持参される。「何か美味しい物はないかあ」と言う。A様に持参された磯部せんべいやたまごパンを手渡すとぺろっと食べてしまい、何度も「美味しいな～もつとくれ～」と催促するほどだった。これをきっかけに徐々にではあるが食欲が出て来ると、今度はお粥を嫌がるようになった。奥様から酢飯がお好きだということをお聞きする。早速軟らかい酢飯で試してみると「うん！美味しいね～」と喜んで召し上がって頂けた。

食べる量にムラはあるが食べてくれる事に、奥様と共に嬉しい気持ちになった。

水分補給は「冷たい水をくれ～」と言ひ、吸い飲みで飲まれるが「旨くない」と不機嫌になる。奥様が心配され、みかん味やりんご味のお水を持参して下さる。

「美味しいね～」と言ったり「旨くない」と言ったりその日の気分によって違うが以前より飲む量は多くなった。冬にはA様の大好きのみかんを毎日持参されるのだが、一房一房綺麗に薄皮をむいた物がタツパに入っており、奥様の強い愛情が感じられる。

〈排泄〉

退院後はオムツとパットを使用している。尿意、便意があるが骨折痛があり安静の為、奥様が尿瓶を用意してくれた。時々パット内にすることもあるが「おしっこがでるよ」と教えてくれるので尿瓶で排尿している。排便痛が強ク「どうにかしてくれ～」と叫びながらオムツ内に排便するのがかわいそうでね、と奥様。排便痛の事を主治医に聞いて頂くと腸が動くから痛いのではないかとのこと。デイでも「助けてくれ～殺してくれ～」と痛がり、排便痛がある時はベッド上で動き回る。腕の力が強く、腰が痛いにもかかわらずベッド柵をガタガタと揺らす事もある。そんな時は手を握ったり、身体をさすったりすると気が紛れ、安心されたような表情をされる。自宅では奥様がオムツ交換をしているが、お尻がただれないように常に清潔を保ち、ワセリンを塗布して下さっている。あまり水分が摂れないのを心配され、どれだけ排尿しているかパットの重さを計っていたこともあったと言われた。体調がよくなってからはトイレに座って排泄して頂いているが、奥様も出来るだけ座って排泄させてあげたいと言ひベッド脇にポータブルトイレを置き、常にそばに居て夜中であろうがA様が呼べばすぐに対応しているという。

〈入浴〉

安静の為入浴ができないので、毎日清拭と更衣を行っている。

清拭を行っているとはいえ、汗や皮脂の臭いが全くしないA様。

前日更衣したパジャマではない物を着ているので、少し気になり、何気なく奥様に聞いてみた。すると自宅でも奥様が毎朝身体を拭き、清潔なパジャマに着替えさせているという。

奥様の体が心配なので私達職員にお任せ下さいとお話するが、「大丈夫です。綺麗にしてあげないとね。お風呂が好きな人だからかわいそうで。」と話される。

A様の事を大切に思う奥様の気持ちを大事にすることにした。

座位が保てるようになり、約 2 か月ぶりにシャワー浴ができた。

バイタルが安定しない日があるので体調をみて週 1 回のペースでの入浴だが職員 2 人体制で湯船に入れた時は「お～気持ちがいいね、サンキュー」と良い笑顔。

奥様にお伝えすると「お風呂が好きだから喜んだでしょう。」と満面の笑みを浮かべていた。しかし、次第に体温が高く血圧が低い日が多くなり、奥様も心配され毎朝体温を測り連絡ノートに書いて下さることにより情報共有した。

〈自宅での看取りを希望される奥様の思いと状況〉

H27 年 12 月体温、血圧が不安定な日が多く食事あまり摂れなくなって来た。

大好きだったみかんも吐き出してしまう。

奥様は状態に変化があっても救急車を呼ばないでほしい、最期は自宅で看取りたいと強く希望されていた。変化があった際は奥様、ケアマネに連絡するよう決まり事を作った。私達職員は正直なところ不安な気持ちが大きかったが、奥様の思いを最優先しケアにあたった。一日中ずっと寝ている日もあったり、目覚めていても穏やかな日と大声で「痛いよ～！」と叫び続ける時の落差が激しい。排便痛と関係していると思われた。25 日に奥様より風邪を引き、熱もあるので休ませますとの連絡を頂く。

H28 年 1 月 3 日まで休まれたが、この間ご自宅でほとんど食事が摂れていないとのこと。4 日より利用を再開されるが、デイでも食事が摂れず、水分も極わずかしか飲んでもらえない。血圧が低く SPO2 が測定できない状態。

8 日顔面紅潮し、どんどん体温が上がり 38℃台となってしまった。奥様へ電話連絡し帰りの準備をしている際、約 30 秒程の意識消失があった。

「俺はもうだめだ」と弱気な発言やうわ言を言う。車椅子に座ってられない状態の為、職員が抱きかかえ自宅まで向かった。個人病院のドクターにも連絡し往診してもらう事になっていたが、舌根沈下もあり呼吸が荒い状態を目の当たりにすると、奥様の気持ちが揺れ動いた。奥様の判断で救急車を呼び搬送。検査結果は肺炎。入院してこのまま自宅に帰れなくなるのが怖いと奥様。ドクターより肺炎をしっかりと治す為の入院だからと説明を受け、納得されたようだった。

25 日には元気に退院され、様子を見てデイの利用を再開すると奥様は明るく話されていたが、30 日自宅にて奥様に看取られA様は 88 年の生涯を終えられた。

〈おわりに〉

住み慣れた我が家でふたり、静かにゆっくり過ごして行きたいと語る奥様の強い思いが、私達を揺り動かし、始まったプロジェクト。

デイサービスの限られた時間の中で、私たちは何ができたのだろうか。

奥様のA様に対する深い思いに、私達はどれだけ答えることができたのだろうか。

まだまだ遣り残したことがたくさんあった。もっともっと色々なことができたのに。

未だ答えが見つからない。しかし、この事実を胸に刻みケアを重ねていけば、いつの日か必ず笑

顔が待っているはず！！

A様、私達の声が聞こえますか？もう一度、もう一度だけ会いたいです。

春まだ浅い穏やかな午後、風がホールを吹き抜けた。どこかでサンキューと、声がした。

「心穏やかに、そして笑顔で過ごして頂く為に」

スーパーデイようざん石原

発表者：内田 広美

<はじめに>

認知症の症状が現れてから数年間、介護保険サービスを使う事無く、ご主人と息子さんが自宅で介護を行われていましたが、昨年6月にご主人が手術をする事になり、スーパーデイようざん石原をご利用される事となったT様。

初めてお会いしたT様の印象は「小柄で華奢な方だなあ」そして「意思疎通が難しい」でした。

そんなT様の状態の変化について、事例報告をいたします。

<利用者様紹介>

氏 名： T様

性 別： 女性

年 齢： 76歳

要介護度： 3

既 往 歴： 前頭側頭型認知症・高血圧・便秘症

認知症中核症状：記憶障害・失語・失認・失行・見当識障害・実行機能障害

認知症周辺症状：妄想・幻覚・徘徊・暴言暴力・多弁・多動・不潔行為・食行動異常

シャドーイング・表情の乏しさ・被影響性の亢進

<生活歴>

昭和15年 富岡市にて一男四女の四番目として生まれる。父親はT様が幼い頃に、また母親を高校生の時に亡くされており祖父を育ての親として成長。高校卒業後は地元富岡で事務職として働く。その後、26歳で結婚され一男一女に恵まれる。結婚後もご主人が退職されるまでパート勤務を継続し、仕事を持ちながらも趣味をいろいろ楽しめる生活を送られていた。

30代後半から詩吟を習い始め、平成12年には師範となり、自宅でお弟子さんを教えながらご自身も藤岡の師匠のもとに通われ、詩吟の大会にも出場していた。

また、カラオケもお好きで発表会では舞台上で唄われたり、50代になってから友人と卓球を始められたり、新たに剣舞(詩吟の唄に合わせて舞う)を始められたりと活動的であった。平成20年頃までは、自動車の運転もされていた。

そのような中で、平成17年頃に「お金を盗られた！」との発語が出始め、平成21年頃からは同じ話を繰り返したり、見えない物が見えたり、その2年後位から家までの道や家族の顔が分からない等の症状が見られるようになる。

その後、平成26年頃から暴言暴力が見られるようになり、ここで初めて前橋市内の脳神経外科病院を受診したところ、MRI検査で大脳に小梗塞を多発しているのが見付き認知症と診

断される。(その際にアリセプトが処方され、高崎市内の病院を受診する平成27年夏頃まで服用)

平成27年6月ご主人の手術の際に、現状では一緒に病院へ連れて行くのは難しいとの相談があり、スーパーデイようざん石原のご利用開始となる。

<ご利用当初の様子>

デイサービスへ出掛ける事は、T様にとって認知症と診断されてから、ご家族と離れてお一人での初めての外出でしたが、来苑に対する拒否は見られずスムーズに利用開始となりました。表情も比較的豊かで介護抵抗も特に無く、声掛けによりホールからトイレや脱衣所への移動も安定した歩行で職員と一緒に来て頂けました。しかし、便座の座り方が分からなかったり、入浴後の着衣時に下着で身体を拭かれたり、ゲーム的なレクリエーションの時は職員の説明を聞いても、ゲームそのものの意味ややり方が理解できない失行・失認・失語・実行機能障害が顕著に見られました。

また、排泄時や入浴時にご自身の大腿部の黒子を見て「虫がついている」との発語と黒子を手で何回も擦る幻視症状も見られました。歌唱の際はご自身は全く唄われず、皆さんの歌が終わると利用者様の顔の前で派手なアクションの拍手をされる逸脱行為や、職員や他の利用者様に向かって突然話し始める様子もみられました。話し始めると顔つきが変わり一方的に捲し立てるように話されるマシンガントーク状態となり、その内容も妄想的な内容(お金・おじさんの事・暴力や死に関する不吉な話等)でした。

また、椅子から突然立ち上がり、そのまま何かを探すようにキョロキョロしながらホール内を周回されていました。

<その後の変化の様子>

平成27年8月 前橋市内の脳神経外科病院からの紹介で高崎市内の病院を受診。MRIの画像では、海馬は消滅し前頭葉の萎縮が見られ認知症が進みきっていると診断されアリセプトD錠が中止となり周辺症状を抑える薬としてロナセン錠が処方される。

薬が変わった事によりマシンガントークはほぼ消失しましたが、落ち着いて座っている事が今まで以上に難しくなり、ホール内の周回や職員の後をついてまわる行動(シャドーイング)、ちょっとした事でも怒る様子(易怒)が見られ、暴言や叩く蹴るの暴力とお茶を撒くなどの逸脱行為が増長した為、次の受診時に利用当初と現状の様子をまとめた資料をご家族を通して医師に情報提供したところ、ロナセン錠が増量される。

※ロナセン錠(一般名:プロナンセリン)…抗精神病薬(統合失調症の治療薬)副作用の少ない第2世代の抗精神病薬(非定型抗精神病薬)に属する。主にドーパミンとセロトニンをブロックする働きに優れ「陽性症状」と呼ばれる幻覚や妄想を改善させる。

(食事の様子の変化)

利用開始当初は、箸使いは問題なく自立。食事途中で食べかけの副食を「あんた食べなよ」と他者の前に置かれたりする様子が見られていましたが、昨年の後半頃から逆に食への執着が強くなり、配膳された食事を手掴みや一本箸で食べたり、盗食・異食行為も表出。個々に器に盛りつけられていると分からなくなったり、他者の言動が気になって集中できなくなったりなど被影響性の亢進もあり。現在は、周りに気を取られずに落ち着いて食べて頂けるよう個別にテーブルを使用し、ワンプレートで提供する事で摂取量も改善する。

(入浴の様子の変化)

利用開始当初は、入浴動作はほぼ自立。一部介助で洗身・洗髪は行って頂いていたが、更衣の際は、ご自分で脱いだ衣類を「よかったら使ってください」と職員に手渡す様子が見られる。薬が変わった昨年夏頃から、シャワーチェアに落ち着いて座っていることが難しくなり、入浴動作は全介助となり、浴槽から出るのを拒否するようになる。

(排泄の様子の変化)

利用開始当初は、「トイレに行きたいんだけど」との訴えあり。但し、トイレ内では便座の座り方が分からない様子も見られる。定時の声掛け誘導も並行して行うが、排尿間隔は長めで排尿はあったり無かったりの状態。それでも日中の失禁は見られず。今年になってから、トイレ誘導のタイミングが合わず、ホール内と散歩中の放尿と失禁が数回あり、更にデイサービスを利用中初めて自己排便行為をされる。

<取り組み>

ご利用開始当初からに比べ、軽減した反面で認知症の症状の進行や増長が見られるT様に、穏やかに笑顔で過ごす頂く為には何をしたら良いかと職員も模索しながら日常のケアを行っていました。

その方策を考える為に、T様に関する情報をもっと知りたいと思い、改めてご家族にご自宅で過ごされている時の様子と在宅介護でご家族が大変と感じている事は何か？等の質問を書面で行ったところ、息子さんから、今まで知らなかったご自宅での様子と最近排泄介助が肉体的に大変になってきているとの回答から実状を知る事ができました。

(ご自宅での排便は、トイレではなく便失禁の方が多く、家族が気づいた時には便を手になされている状況。排尿も時々トイレ以外の場所ですってしまうので大変との報告あり)

T様は便秘症の為、排便は7日から10日に1回との事。便秘は不穏となる原因の一つと考えられています。来苑時の連絡ノートに毎回息子さんが「排便のあり・なし」を記載して下さる為、今まで職員も「〇日に排便がありました」とのコメントに一喜一憂してきました。

そこで、T様が抱えている便秘による不快感を少しでも軽減できれば、もっと穏やかに笑顔で過ごす頂くのではないかと。また同時に、ご家族の抱えている排泄介助の負担を少しでも軽減

する手助けになるのでは・・・と考え、次の内容の便秘改善の取り組みを開始しました。

≪T様の便秘解消の為の取り組み≫

1. ご家族に『便秘に関する質問』を書面で行い、下記の回答を頂きました。
 - ① 自宅での1日の水分摂取量が 700cc～800cc と少ない
 - ② 散歩等の運動は最近行っていない
 - ③ 今まで自宅で腹部マッサージを行ったことは無い

2. 上記の回答を元に『便秘に関するワンポイント・アドバイス』を作成し、ご家族に参考資料として渡したところ「早速、出来る事からやってみます」とのコメントがあり、数日後のご利用日に「自宅での水分摂取量を 1200cc 位まで増やした。また、乳製品を夜多めに摂るように野菜の量も増やした」との報告を頂きました。

3. デイサービスご利用中の対応として、下記内容の取り組みを実施
 - ① 便を柔らかくする為に、日中の水分摂取量を増やす
午前・午後の水分提供を今までより各 150cc プラスする(トータル 300cc 多く提供)
水分摂取量の変化 900cc → 1200cc
 - ② 腸の活動を促す為に運動を行う
体操的な運動は難しい為、15～30 分程度の散歩を実施
(屋外の散歩ができない場合は、ST 石原に通じる廊下を歩行)
 - ③ 腹部マッサージを行う
トイレ誘導時、排尿を待つ間に便座に座った状態で、腹部を時計回りにゆっくりマッサージ
 - ④ T 様専用の排便チェック表を作成
排便間隔・便の形状・量を職員全員が把握できるようカレンダー形式で表示

<結果>

3月より取り組みを開始し、ご自宅では食事内容や摂取する時間帯を変更したり水分摂取量を増やし、デイサービスでも水分摂取量と運動量を増やした結果、排便の回数も徐々に増え、便の形状も硬便から普通便に近くなりました。間隔は3月下旬から4月初めには5日間連続して排便があったのが、その後は7日間排便が無く、また 4 月下旬から続けて排便が見られたりと成果・効果は一進一退の状態です。

その他の変化としては、今までは 1 日を通して乏しかった表情が、便秘症状が改善されるに連れ徐々に穏やかとなり笑顔も以前のように増えてきました。易怒感や暴言暴力も軽減し、介護抵抗があり実施困難だった口腔ケアも落ち着いて座った状態で行えるようになり、時には口腔ケアが終わると職員の間を見て「ありがとう」とおっしゃってくださいます。また、話し掛けの際は、視線を逸らさず職員の間や表情を見ながら話を聞いてくださり、冗談には肩をすぼめて「プツ」と

吹き出し笑いをされるなどの変化が見られるようになりました。
最近のご自宅での様子の聞き取りでも、息子さんから「便秘が解消されてきてイライラした様子が軽減し、排便のあった日の夜は良く眠るようになった」とのお話がありました。

<考察とまとめ>

今回の取り組みを開始してからデイサービスでも、日増しに T 様の穏やかな表情を目にする事が多くなり、私達職員も水分摂取の大切さを改めて感じています。

不穏の外的要因ともなる便秘の改善に、以前から言われている水分摂取の大切さを日頃から意識し、ご家族へ日常での生活習慣等を改めて聞き取ることで、ご自宅での水分摂取量の不足や食事内容の弱点を把握する事ができました。また、改善案をご家族に提示し連携する事で、まだまだ波はあるものの、便秘改善の兆しとこれに伴い周辺症状にも変化が見られるようになった事は、今更ながら薬や処遇ばかりでなく、基本である生活習慣を整える事の大切さを実感できた事例でした。

これからもスーパーデイ石原では、今回のT様に限らず原点回帰して、ご利用者様の健康と笑顔を守って行きたいと思えます。

デイサービスぽからの認知症予防の取り組み

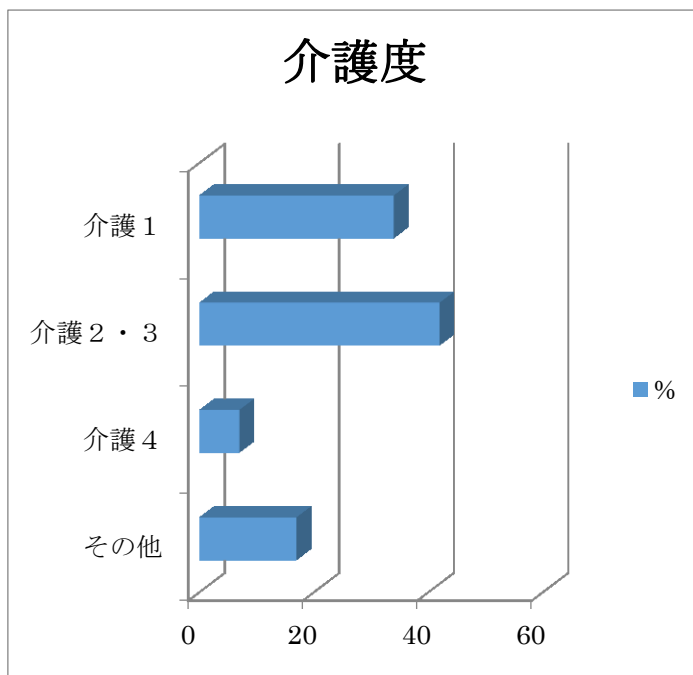
デイサービス ぽから
発表者: 清水 茂 樹
: 芝 田 康 恵

【はじめに】

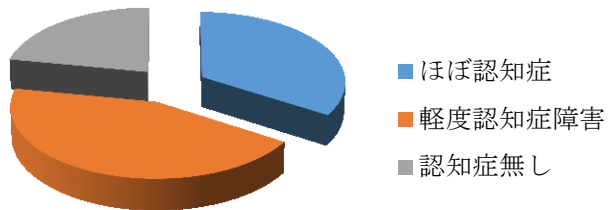
デイサービスぽからでの利用者様の介護度は、現在介護2及び、3の方々が全体の42%と多い状態となっています。

今現在、利用者様が、どの程度の認知症の状態であるか確実に把握するために、改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)を用いて診断する事にいたしました。点数が、0～20点以下のほぼ認知症とみられる利用者様は約3割いらっしゃいました。その他の利用者様は、認知症の方と、認知症でない方の中間にあたる、MCI(軽度認知障害)または、認知症はまったく無しという結果でした。

診断結果をまとめたグラフがこちらになります。



認知症診断結果



私たちは、この結果にもとづき認知症予防及び、認知症進行を遅らせる事を重点に置いた各種レクリエーションや、個々を中心とした多種多様な取り組みを行っています。今回、そのほんの一部をご紹介しますと思います。

【目的】→・自信を取りもどす

・脳を活性化させたい

- ① 個々に丁寧なアセスメントを行いやりたい事、やってみたい事の小さな成功体験をいくつもいくつも積重ねてゆく事で、利用者様の大きな自信につなげていきます。
- ② 回想法を取り入れ、出来ないこと、分からない事は避け昔得意だった事、好きだった事を職員がサポートしながら行い利用者様の大きな自信につなげていきます。
- ③ とにかく利用者様におおいに楽しんでいただきます。
そして、楽しんでいただきながら脳トレーニングに参加していただいています。

【取り組み内容】

デイサービスぽからでは、『回想』・『運動』・『作業』の三点をぽからの取り組み『三本柱』として位置づけ、特に力を入れて職員全員で協力し合い取り組んでまいりました。

その取り組みを、いくつかご紹介します。

《取り組み 1～作業、回想～》

* 若い頃、編み物が得意だった S様

当初は、「ムリムリ、もう出来ないわよ」「私はだめよ…」とおっしゃっていましたが根気よく職員と一緒にやり続けていると、身体が覚えていらっしゃるのか、徐々に昔のスピードを取り戻しつつあります。今では昔使っていたご自分の道具を持参して下さり、「どれが使いやすいかね」などと言いながら生き生きと作品に取り組んでいらっしゃいます。

現在、デイで使用するクッションを制作中です。

《取り組み 2～回想、作業～》

大きな農家の嫁として、長年毎日毎日、田畑を耕し家を支えていた H様

ぼからの小さな農園の、苗選び、植え付け等、お手入れをおまかせしています。

朝、駐車場に到着すると同時に「どれ、苗を見てくるかね」、「もう、根付いたかね」とすすんで様子を見に行ってくれています。

《取り組み 3～回想、運動～》

和踊りの会の皆様のご協力の元、踊り名人数名と他事業所2ヶ所に慰問に行き踊ってきてしまう活動を、今年に入ってから行っています。曜日により参加できる方は変わりますがどの方も積極的に楽しまれています。

踊りをただ見ているだけでなく、直接利用者様本人が踊りに参加でき、加えて他事業所の利用者様に見て喜んでいただき、「皆さんと同じ位の年で、他のデイサービスからやって来たんですよ。」などと紹介される事で誇らしげな表情で胸を張っていらっしゃいます。訪問先の職員の方からも「すごいですね」「踊りが上手ですね」等とお褒めの言葉を直接かけていただいています。「まだまだ私にも、出来るんだ」「喜んでもらえるんだ」と皆様の大きな自信になっている事は間違いありません。また、家に帰ってからのご家族様との会話もおおいに増え「おばあちゃんすごいね。」などと一目置かれているご様子です。皆様追加利用してまで是非とも参加したいとご本人様、ご家族様ともに希望され喜ばれています。

《取り組み 4～運動～》

ようざん通貨を取り入れながらの歩行訓練まだまだ継続中

ようざん通貨導入当初から実施している歩行訓練ですが、下肢筋力低下予防運動の積極的な参加に効果を上げています。ぼからのフロアから廊下の14mを使い、個々にスタンプカードを作りシールを貼り、その数におおじて商品をプレゼントしています。商品はたまった点数ごとにようざん通貨等をお渡ししています。もちろん、ようざん通貨を使用する魅力的な場も多く設定し、どんどん貯めたくなるような気持ちになっていただいく工夫も忘れません。

《取り組み 5～運動、脳～》

脳と体を使う様々なデュアルタスク

認知症の症状である記憶の低下に改善に効果があるとされる、有酸素運動+脳を使うトレーニング

グ『デュアルタスク』を積極的に行っています。

- ① 足踏みを行いながら、手拍子を行い合わせて歌を歌う。
 - ② 散歩を行いながら、簡単な質問(計算、クイズ、花の名前、好きな物等)をする。
 - ③ イスを円形にならべて、歌を歌ったりしりとりをしながら順番にボールをまわす。
- その他、毎日様々な組み合わせを行い取り組んでいます。

《取り組み 6～運動～》

新たな試み午後の体操

以前は、午前中に行う朝の健康体操のみでしたが、機能訓練指導員と話し合い、「午後にも下肢筋力低下予防の運動を行っては」、という意見があり検討した結果、利用者様の負担増になり過ぎない様、午後のレクリエーション前の短時間の実施という条件で行っています。

現在、更に効果を上げられる事ができないか再検討中です。

《結果》

週2日のご利用だった4名様は、6月現在週4日に増えています。他、多くの利用者様も利用日を増やしていただいております。

また、ご主人の世話だけが生きがいであり、ご家族様との口げんか等の絶えなかったS様は、ぼからに週4日通いさまざまな体験やレクリエーションを行う事により、ご主人に目を向ける時間も減りご家庭での話題も『ぼから』での出来事や楽しみが中心となっている様子をご家族様からお聞きしています。ご主人様やご家族様とのトラブルも減少し、笑顔がとて多くなったと喜びのお言葉をいただいております。

【最後に】

今、この瞬間幸せでいましょう

それで十分です

その 瞬間 瞬間が私たちの求めているものすべてであって

他には何もいらぬのです

今、幸せであるようにつとめましょう

マザー テレサ

この言葉通り

私達職員も、共に「幸せ」と思える時間(瞬間)を増やす事がとても大切な事だと、心にとどめ毎日毎日この瞬間を利用者様と共に共有し一緒に楽しみ、喜び、感動していきたいと思っております。

私のオアシス・ようざん パーソンセンタードケア

スーパーデイようざん栗崎

発表者 情野槇子

はじめに

来苑拒否が激しく、「こんなところは私の来るところじゃない！！」と言い切っていた A 様が、「ようざんさんは 私のオアシスよ」と言うようになった A 様のパーソンセンタードケアについて紹介いたします。

対象者紹介

A 様 年齢84歳 女性

家族構成

同居者:娘(主介護者)・娘の夫・孫娘(20代・介護補助)・孫息子(20代)

全員が日中働いており、日中独居者。

現病歴

アルツハイマー型認知症(A病院 物忘れ外来受診・平成26年6月診断される)

高血圧症

既往歴

平成20年4月 脳内出血(後遺症なし)

服薬情報

利用開始当初:平成26年7月

- ・ミカルデイス錠 40 mg(血圧を下げる薬)
- ・メマリー20 mg(認知症の進行を抑える薬)

現在:平成28年1月

- ・ミカルデイス錠 40 mg(血圧を下げる薬)
- ・メマリー20 mg(認知症の進行を抑える薬)
- ・レミニール 4 mg(認知症の進行を抑える薬)
- ・クエチアピン錠 25mg(気分を安定させる薬)

生活歴

N 県 K 市に生まれる。造り酒屋を営む両親の6人兄弟の5番目。幼少期から結婚に至るまでの間、大勢の女中や使用人にかしずかれ、何不自由なく育った。

22歳の時恋愛結婚し(本人曰く、夫は俳優かと言われるほどの美男子だった。)N 市に暮らし、1人娘をもうける。夫42歳の時に他界、母一人子一人となり生計を守ってきた。A 様65歳の時、高崎市に住む一人娘の嫁ぎ先に引き取られ、娘家族と同居生活を始める。

A 様は大変な働き者であり、自分の考えをしっかりと持っている人であった。若いころから、オシャレでセンスも良く、はやりの服を自分で仕立ててダンスパーティに出かけた。長年、舟木一夫のファンクラブに入って、追っかけをしていた。舟木一夫デビュー50周年を機にファンクラブは退会した。実に81歳になるまで追っかけをしていた。

A 様が高崎で暮らすようになり、愛犬リリーちゃんを飼って栗崎方面まで散歩をすることが日課になっていた。愛犬リリーちゃんが亡くなってからは、日中一人で、アピタや市役所屋上に出かけコーヒーやケーキなどを食べて帰ってくるのが楽しみであったが、徐々に閉じこもりがちになっていた。

平成22年(78 歳)頃から、鍋を火にかけ忘れ焦がしてしまう。平成25年頃から、自宅の鍵をなくすことが多くなる。平成26年、不安・暴言・感情失禁などがみられ、物忘れ外来を受診。アルツハイマー型認知症と診断される。このことがきっかけとなりスーパーデイようざん栗崎利用開始となった。

性格

- 自分の考えを持ちプライドが高く、羞恥心が強い。
- ユーモアがあり、話好き。自分の生い立ちなど面白おかしく話す
- 何事も自分が中心でないと気がすまない、わがまま。
- 一人で行動することを好み、協調性に欠ける。
- 女性らしさを大切にしている。

好きなこと

- 若い男性が好きで年配の男性は嫌い。
- 明るく賑やかなことを好む。
- 長年、舟木一夫のファンクラブで追っかけをしていた。
- おしゃれ、アクセサリーや洋服が好き。

A 様にみられる特徴的な認知症状

A 様は利用して2年になるが、その2年の間に様々な変化がみられた。

平成26年7月～：利用開始当初

病識の欠如：病識の欠如が如実にみられ「認知症っていうレッテルを貼られているけど私は認知症じゃない。だからこんなところは私の来るところじゃない」と発言。

感情失禁(陰性):感情の起伏が激しく、陰性症状が目立つ。他の利用者様がお帰りになると「私をいつ帰らせてくれるの。」と何度も職員に詰め寄る。その後、玄関前の椅子に座りこみめそめそと泣く。

平成27年1月～

睡眠障害・抑うつ:ふれあいノートで家族から、深夜一人で何かぶつぶつ話している、部屋で暴れている、早朝からごそごそ動いている。という内容の相談が増えた。また、来苑されても俯き、反応も鈍く、体操・レクリエーションに参加しない。

記憶障害：同じ話を何度も繰り返し、繰り返す間隔が徐々に短くなっている。

平成28年1月～現在

見当識障害:帰宅する時間が分からず、他利用者様が帰宅するなど周りの様子を見て「私も帰らなければいけない・・・」と判断する。話をしても何月何日か理解できていない。また、場所の認識も曖昧になり、ショートステイとスーパーデイの判別がつかず混乱していることが多々みられる。

感情失禁(陽性):このころになると陽性症状が強く表出し、周りの環境変化に敏感に反応し激しく怒り出すことが多々ある。

暴言:他利用者様に対しての言葉使いが乱暴になり、大きな声で相手を傷つけるような言葉を言い続ける。

被害妄想:朝早く来苑し、誰もいないフロアにいると無然とした表情で「私がいるからみんな来ないんでしょ!」と言う。

これらの変化から、アルツハイマー型以外のピックらしい前頭葉症状が伺える。カンファレンスを行い、「混合型」との予測を立てた。認知症ケアの基本となる「パーソンセンタードケア」を根拠とし、環境に敏感に反応する(被影響性の亢進)という症状を活かして雰囲気づくりや場面や場所を変えることで周辺症状のコントロールが可能であることを試みた。

「パーソンセンタードケア」とは、次の4つの理念から成り立っている。

- ①その人を中心にしたケア(その人を人として大切にする)
- ②その人の視点に立ったケア(その人の側に立って考えてみる)

- ③その人の内的体験を理解するケア(その人の気持ちを理解する)
- ④その人らしさを大切にするケア(一人ひとりそれぞれが尊い人であると意識する)

パーソンセンタードケアの概念・認知症ケアポイント5項目

- ①なぐさめ(安定性)・一人の尊厳ある人間として一つの心にとどまることができるように、温かさと気力を用意する。
- ②結びつき(絆)・不確定で不安な気持ちに対して、赤ん坊が母親を求めるような密着・愛情を求めることに応答する。
- ③共にいること(仲間に入りたい)・孤立しているのではなく人と交わっていることで得られる安心感を求めている。注意を引くサインを見逃さない。
- ④携わること(役割意識)・人は仲間にとって役に立つことで安心し満足する。そのための能力や気力を引き出す。
- ⑤自分であること(物語性)・自分が誰であるかを知り、過去から一貫した自分であることを意識できるように心がける。その人の物語を聴き、現在の内的体験を聴き取る。

A様にとっての「パーソンセンタードケア」

パーソンセンタードケアの概念に基づく取り組み

概念①

認知症状が変化し、どのような状況にあっても常に変わることなく、温かく包み込むよう穏やかに寄り添ってきた。

概念②

気分が不安定な時はA様の傍らに寄り添い(スキンシップ)を図り、A様の気持ちが穏やかに安定するまで、お気に入りの男子職員が寄り添い、じっくりと話を聞き受け入れることによって、結びつきを深めてきた。

概念③

A様の表情やしぐさ・言動から感情の乱れの前兆を察知し、さりげなく思い出の散歩コースにお誘いし寄り添うことで孤立感を解消し安心感を持つことができた。

概念④

来苑時には、食器拭き・食器片づけ・皆さんのおやつの準備・洗濯物たたみ・洗濯物干し・畑の水やり・おやつレク時におやつ作りや売り子などをして頂き、その都度皆さんから感謝され職員か

らも頼りにされることで、役割意識が高まり、A様の気力や意欲が引き出され、生きがいを感じる事ができた。

概念⑤

A様の高崎での暮らしや日常生活だけでなく、N県在住時の生活やエピソードなど話に耳を傾けA様自身のあらゆる思いを職員が深く理解することができた。

A様の思いを汲んで特に工夫を凝らしたことは、『思い出ツアー』の企画が効果的であった。

A様の好きな思い出の場所へ散歩やドライブ・ウインドウショッピングに出かけることは最適であった。屋内にあっては「思い出レク」として、舟木一夫のファンクラブで追っかけをしていたところに立ち寄り、舟木一夫の映像と共にA様が「高校三年生」を歌い始めると職員も他の利用者様と大きな合唱の輪が広がり、連帯感や共感が生まれフロア全体が何とも言えない和やかな雰囲気にも包まれ穏やかな気持ちになる。またA様の生活に根強くかかわった作業で、幼少期に「あば(乳母)」と一緒に「切り干し大根」作った思い出に触れ、職員や他利用者様と一緒に切り干し大根づくりを行った。A様中心に話の輪が広がり、いづれも特別感のあるレクの提供を実施できた。

その結果、利用時には穏やかに楽しく過ごすことができるようになった。帰宅後「お陰様で、なんだかとても機嫌がいいですよ！！帰宅後は楽しかった話をしてくれるようになったんです。」と家人から感謝の報告が寄せられている。

考察

A様の居心地の良い「オアシス」を作る為に、パーソンセンタードケアの観点から、A様を中心に、A様の視点に立ち、A様の内的体験を理解しA様のありのままを受け入れ、その人らしさを尊重したケアを実施することによって、A様にとって居心地の良い居場所となった。認知症ケアにとって、基本となる「パーソンセンタードケア」が効果的に提供できたのは、「少人数制・きめ細やかな手厚いケア」に特化した認知症専門のスーパーデイようざん栗崎が評価されるべき点であることを実感し再確認できた。

まとめ

認知症専門のスーパーデイようざん栗崎を利用される方は、要介護1～3の自立度の高い利用者様が大半を占めている。日常生活の中で自分でしっかりできている部分と、物事が分らなくなりできなくなっている部分が混在し、日常的に周辺症状が入り混じった混乱期にある方が多いのが実情である。在宅介護においては、認知症進行過程で最も大変で心身共に疲労し、すり減ってしまう時期でもある。

私たちはA様の事例を通し、改めてパーソンセンタードケアの大切さを学ぶことができた。人それぞれ育ってきた環境も違えば趣味・嗜好は異なり、同じことをしても返ってくる反応は様々である。認知症専門家で認知症診断「長谷川式」の発案者である、長谷川和夫氏の言葉によれば『その人の尊厳を支え、十分に配慮した言葉遣いや行動をとり、同情ではなく共感するためには、介護

者は鋭いセンスを磨く必要があります。認知症の介護とは、自分の人生の時間の一部を、それを必要としている人たちの為に、自分を磨きながら使うと言う仕事です。』と・・・

介護職に携わる私達自身が、あらゆる経験を積み人間力を磨き成長することが不可欠である。この学びを活かし、スーパーディようざん栗崎に来て下さるすべての利用者様が、『私のオアシス！』と言って頂けるように、心新たな思いで取り組んでまいります。

参考文献

- ・浦上克哉 「認知症 良い対応・悪い対応」(正しい理解と効果的な予防)
日本評論社 2010年
- ・河野和彦 「新しい認知症ケア 医療編」講談社 2012年
- ・介護福祉士養成講座編集委員会「介護の基本 I」中央法規 2009年
- ・長谷川和夫・長谷川洋「正しい理解と適切なケア よくわかる高齢者の認知症とうつ病」中央法規 2015年

「色々あるけど頑張るよ！」

スーパーデイようざん中居

発表者：林 安子

川岸 亜弥子

(はじめに)

私たちは、仕事や趣味などを持ち好きな事に取り組みながら日々の生活を送っています。当たり前の事ですが、とても充実した時間です。

今までの生活が変わってしまうとしたら、どうでしょう？色々理由はありますが。

認知症と診断された事により、今までの生活が少しずつ変化し始める。以前はテキパキと出来た事が出来なくなり、おまけに不安までついてくる。自宅での充実した生活がしたいと願うのは、私達だけではなく、A様も同じではないかと考え、意欲を取り戻し、不安の軽減に繋がると思い行った、スーパーデイようざん中居での取り組みを紹介させていただきます。

(事例対象者様紹介)

A様 女性 85歳 要介護度 2

障害高齢者 日常生活自立度 A1

認知症高齢者 日常生活自立度 II

(主な病歴)

H22. 6 高コレステロール血症

H24.12 アルツハイマー型認知症と診断される。

H25 第一腰椎圧迫骨折

H27. 6 心不全

(生活歴及び性格)

B市で生まれる。兄弟は皆、親が違い現在はほとんど交流がない。C市の旅館で仕事をしており、その後結婚され子宝にも恵まれるが、ご主人が事故に合いA様が清掃業など懸命に働き生活を支えて来られた。大変器用で趣味の針仕事、お饅頭やうどん作りなどでした。非常に社交的で近所の方と歌や踊りを楽しまれたり、花を育てたり家の周りの草むしり等も精力的に行われていたそうです。

自分に真っ直ぐな性格で、少々頑固な面も見られます。

子育てを行ないながらも仕事や趣味に充実した日々を送られていたそうです。現在はA様とお孫さんとの二人暮らしです。

(A様の想い)

明るく楽しい時間を過ごしたい。

独りで居ることでの寂しさや不安を軽くしたい。

(お孫さんの想い)

日中、一人で過ごす事が多く、引きこもりにならないか心配。

他者との関わりを持って昔の様に活動的過ごして欲しい。

(スーパーデイようざん中居での様子から見えた課題及び取り組み)

【コミュニケーション】

利用開始時は不安な表情も見られましたが、回数を重ねるごとに雰囲気にも慣れ、徐々に特定の方に対して言葉を強く表す姿が見られました。時には職員に「あの人が私の事を悪く言っている」「私は何もしていないのに、口も聞かない」等の訴えが聞かれる様になり、時には声を荒げて特定の利用者様に「あんた！ そんなんだったら向こうへ行けばいいでしょう！」「私は悪くないから、ここはどかないよ！」など勝気な面が多く見られる様になりました。

・取り組み

職員全員で情報共有し話し合いを実施する。

A様は家事仕事が、大変得意な方である為、洗濯物干しや食器拭きなどをしやすい環境に整え他の利用者様と協力しお手伝いして頂きました。

家事が得意な A 様に、月に一度SD中居で開催する、調理レクレーション「中居食堂」にお試し参加を試みる。

制作や塗り絵などご本人の得意な事や好きな事を提供し職員や他の利用者様と一緒に行って頂く。

A様と話しが合う、他の利用者様の近くの席を用意し話しやすい環境を整える。

・結果

手先も器用なA様は、制作の貼り絵など「手が上手く使えないから」と言いながらも集中し細かな所もきれいに仕上げてくれます。元々社交性のある方なので、作業中も若い頃の話など懐かしそうに話され、それを中心にお喋りに花が咲き笑顔での会話が広がりました。和やかな雰囲気にもA様も穏やかな表情を見せて下さる事が多くなりました。

また、デイサービスで馴染みの方ができる事で、緊張も解けリラックスして過ごされる様になり、特に調理レクレーションでは、A様の生き活きとした姿が見られ自信に繋がった様に感じられました。会話の中でも、「お料理なんて久しぶり、手をかけると美味しいものが出るのね」と嬉しそうに話されていました。「次回もまたやりたい」とのお言葉も頂いています。

【来苑拒否】

利用当初は時間には玄関先で準備され待っていてくれた A 様でしたが、徐々に「今日は行く日だったかね？」と言われる事が増え、「記憶障害」や「見当識障害」が見られました。また、違う日でのお迎えでは、「待って貰うのは嫌だから今日は休みます」、「今から洗濯物を干さないといけないから」などの理由をつけての拒否が多く見られる様になりました。「留守番が来るはずだから、来てからじゃないと行けない」とA様が言っていると、居合わせたご家族様が「何も心配ないから、出掛けて大丈夫だよ」とA様の背中を後押して下さり、協力のもと来苑される姿が度々見られる様になりました。

・取り組み

A 様に対し安心して来苑して頂ける様に「次回も是非いらして下さい」「待ってますから」などの声掛けを積極的に行う。

出掛ける事に対してA様なりの不安や心配事があるのでは？と考え軽減出来るよう、来苑する際は火の元、家の施錠などA様と一緒に確認作業を行う。

迎えの時間では様子を見ながら、その都度、後の送迎に無理がないよう時間をずらし対応する。

記憶障害に配慮し、カレンダーにようざん中居を利用する日に○印を付ける。

・結果

家の火の元や鍵を確認する事で安心感を持ってもらえ、時間をずらした事により気持ちの準備ができてスムーズに車に乗れる事が多くなった。

カレンダーに○印をつけた事により混乱も少なくなり、「安心して出掛けられる」や「一緒に見てくれて良かった」との言葉を頂き、A様の中での不安や心配を軽減出来ていると実感できました。「ここに来て居れば安心だし、とっても楽しいから来るのが楽しみ」と話されています。

また、スーパーデイの特徴の一つでもある密に関わる時間の多さを活かし、A 様と関わる時間を多く持つ事で、大事な信頼関係も築けました。

現在ではご本人様ご家族様の希望もあり、利用回数が週2回から週3回、9:30から夕食後までの利用となっております。

(まとめ)

A 様は1日の半分以上は独りで過ごされている事を会話中だったりモニタリング、記録からA様の不安を知ることが出来ました。元々社交的で外にも積極的に出ていらっしゃいましたが、認知症状の進行に伴い意欲低下の為、自宅で閉じこもる事が多くなっていたA様でしたが、レクレーションなどを通じ、A様に自信を持ってもらえ、意欲向上に繋がるお役にたてれば幸いと感じます。独りでいる時間というのはとても寂しいものであり、味気ないものです。

孤独感や日中家で特に何もすることがなく一人で過ごす事で、生活のハリもなくなり、認知症状も進んでしまいます。

私達デイサービスの職員が出来る事は A 様の人生にとって大きな事ではないかもしれませんが。しかし一つひとつの事は小さくてもまとまれば大きくなります。

時間の許す限り A 様に寄り添い不安や寂しさを軽減できるよう、介護職としての技術や知識を工夫して A 様にとって日中過ごしていて居心地が良い所。安心して A 様らしく住み慣れた場所で生活できるお手伝いが出来たら良いと実感すると同時に、少しの変化も見逃す事無く日々のケアを職員全員のチームワークで続けて行きたいと思えます。

すべては、ご利用者様の為に

ご清聴ありがとうございました。